四〇一二 **等妣多毛登保里** 妣は、元暦校本等に依る。底本等には比に作つてゐる。

安之我母乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

知加久安良婆 婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

伊麻布都可太米 米は、元暦校本等に依る。底本等には未に作つてゐる。未詳の語であつて、いづれを是とすべきかを知らぬが、しばらく古本に依る事とする。

奈奴可乃乎知波 乎は、元暦校本等に依る。底本等には宇に作つてゐる。いづれにしても意を成すが如くであるが、よく考へてみると、七日のうちは過ぎむやといふ事は變である。乎知に從ふべきであらう。

四〇一三 **伊麻尓都氣都流** 元暦校本に、麻を度に作るほか、異傳は無い。考に麻を米の誤とし、夢に告げつるの義となしてより諸說多くこれに從つてゐる。今按ずるに、花待伊間尓嘆鶴鴨（卷七、一三五九）の例があるから、原文のまゝに存しておく。

乎豆母許能母尓 豆は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇一四 **安美佐之豆** 同前。

麻追我敞里 敞は、底本等に依る。細井本には弊に作つてゐる。

之比尓豆安礼可母 豆は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇一五 左註 **形容** 容は、多本に依る。底本に、容は本文中に無く、右に書いてゐる。

秀群也 群は、底本等に依る。細井本には郡に作つてゐる。

乖候 乖は、底本等に依る。細井本には卒に作つてゐる。

搏風之翅 翅は、底本等に依る。活字附訓本以後、翅に作るのは誤である。

腐鼠之餌 底本に餌を餅に作つてゐる。今、多本に依る。

張設 底本に、張を悵に作つてゐる。今、多本に依る。

奉幣 幣は、底本等に依る。元暦校本等多く弊に作つてゐる。

特乎不虞也 特は、底本等に依る。活字無訓本以後、特に作るのは誤である。

奥以 奥は、諸本に皆同じであるが、略解の說の如く、恐らく㐂の誤であらう。今、底本のまゝとする。

喩曰 曰は、底本等に依る。細井本には日に作つてゐる。

四〇一六 **空費精神** 費は、底本等に依る。細井本に貴に作り、活字無訓本に貴に作つてゐる。底本に、精神を情邪に作つてゐる。但し邪は何かを直して、右に神を書いてゐる。今、元暦校本等に依る。

彼鷹 鷹は、多本に依る。底本には懸かと見える字を直してゐる。

覺寤 寤は、元暦校本等に依る。底本等、寤を寐に作つてゐる。

四〇一七 **此歌** 歌は、底本等に依る。細井本に誦に作るのは誤である。

謂之 之は、元暦校本等に依る。底本等には之の字が無い。

四〇一八 **美奈刀可是** 是は、底本等に依る。細井本は世に作つてゐる。

都麻欲妣可波之 妣は、元暦校本等に依る。底本等には比に作つてゐる。

四〇一〇 **和須礼豆於毛倍也** 豆は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

廿年 諸本この上に天平の二字がある。今、元暦校本に依つ削る。前からの續きで年號を要せぬ處である。此處に至つて二十年になつたのである。

乎加未河伯 伯は、底本等に依る。細井本等、泊に作る本もある。

四〇二一 題詞 **鵠坂河邊** 底本等、この上に渡の字がある。今、元暦校本に依つて削る。

作歌一首 歌は、元暦校本等に依る。底本等には歌の字が無い。

四〇二二 **宇佐可河伯** 伯は、底本等に依る。元暦校本等には泊に作つてゐる。

伎奴ゝ礼尓家里 奴は、元暦校本等に依る。底本等には努に作つてゐる。

四〇二四 題詞 **新川郡** 川は、底本等に依る。細井本には河に作つてゐる。

四〇二五 題詞 **氣太神宮** 氣太神宮は、元暦校本に依る。底本等には氣比太神宮に作つてゐる。地理を按ずるに、元暦校本を可とすべきである。

四〇二六 題詞 **射熊來村** 細井本等はこの上に、行於の二字がある。底本等に從ふべきである。

四〇二六 **登夫佐多氐** 氐は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇二七 **船木伎流等伊布** 布は、元暦校本等に依る。底本等に有に作つてゐるのは誤である。

久麻吉乎左之氐 氐は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇二八 **京師之於母保由** 師は、元暦校本等に依る。底本等には都に作つてゐる。元暦校本及び類聚古集には保を倍に作つてゐる。この字面は他にも例があり、或は原形であるかも知れない。今しばらく、底本のまゝとする。

美奈宇良波倍弖奈 弖は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇二九 題詞 **治布** 治布は、元暦校本に依る。底本等には太沼郡に作つてゐる。能登の國及びこの近處に太沼郡といふのは無い。元暦校本を是とするであらう。

仰見 仰は、底本等に依る。細井本には作に作つてゐる。

四〇二九 **安佐妣良伎之弖** 妣は、元暦校本に依る。底本等には比に作つてゐる。弖は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇二九 **奈我波麻能宇良尒** 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

都奇氐理尒家里 氐は、底本等に依る。細井本には底に依つてゐる。

四〇二九 左註 **當時當所** 下の當は、元暦校本に依る。底本等にはその字が無い。

屬目 目は、多本に依る。底本には自を直してゐる。

四〇三〇 **可多麻氐婆** 氐は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。底本等、婆を波に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。濁音の字を用ゐるべき處である。

四〇三一 **敷刀能里等其登** 里等は、多本に依る。底本に、墨及び朱で、里等を入れ換ふべき記號を附してゐるのは、その意を得ない。

安賀布伊能知毛 賀は、元暦校本等に依る。底本等には加に作つてゐる。

定本萬葉集卷第十八別記

目錄 四一頁 二行 **天平廿年** 元暦校本には、以下目錄全部無く、直に本文を書いてゐる。今、底本に依つてこれを存置する。この卷の目錄も、底本系統と細井本系統との二流があるが、底本系統に依ることとする。

四行 **于時期之明日** 細井本にはこの六字が無く、二十四日の四字がある。于時期之明日とあるは本文に依つたものであり、二十四日はこれを整理したものと認められる。今、底本に依る。

六行 **至水海** 底本に依る。細井本には、この上に同日の二字がある。

七行 **椽久米朝臣廣縄** 底本に依る。細井本には、この上に廿六日がある。

一〇行 **御製和歌** 底本に依る。細井本には、和左大臣歌御製に作つてゐる。

二行 **御製歌** 底本に依る。細井本には、於左大臣橘卿宅御船浜江遊宴時御製に作つてゐる。

三行 **廿三日** 廿は、底本等に依る。細井本には、卅に作り、右に廿歟とある。

一六行 **山上臣** 臣は、多本に依る。底本には自に作つてゐる。但しもと呂か。

白合花縵 白は、底本に依る。細井本には百に作つてゐる。本文には元暦校本等多く白に作つてゐる。天治本新撰字鏡卷第七、草部に、白合 二八月採根曝干由利 とある。

一三行 **各賦此縵** 底本等、各の字が無い。本文にはあるから、今、神田本等に依つてこれを補ふ。

一五行 **英遠浦** 英は、神田本等に依る。底本には芙に作つてゐる。

一六行 **賀陸奥出金詔書歌** 底本に依る。細井本には、この上に、天平感寶元年五月十二日守大伴家持於越中國舘の二十一字がある。

四三頁 一行 **教喩** 教は、底本等に依る。細井本には、敬に作つてゐる。

三行 **不待夫君使自來時歌** 使及び歌は、底本等に依る。細井本には使が無い。活字附訓本以後、歌が無い。

三行 **廿三日** 廿は、底本等に依る。細井本には、卅に作り、右に廿歟とある。

六行 **守大伴家持** 守は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四〇三二 題詞 **田邊福麿** 底本等、邊の下に史がある。今、元暦校

本に依る。

四〇三一 題詞 **爰作新歌并便誦古詠**　作及び便は、底本等に依る。細井本には作の字無く、また便を使に作つてゐる。

四〇三二 **奈美多弖波**　弖は、底本等に依る。元暦校本には氐に作つてゐる。細井本等は底である。氐と弖とに就いては、萬葉集文字辯證に說あり、弖は氐の異體字としてゐる。本集にあつてはこれを併用し、略そのどちらかに一定した傳來を有してゐる。

奈吳能宇良未尒　底本等、未を末として、ナヨノウラマニと訓してゐる。古寫本に在つては、未と末との區別は附きかねるものがあるが、訓あるものは、そのいづれを指してゐるかを知ることが出來る。今、古義の說に依つて未を採用すること前例に依る。

之保能波夜非波　非は、底本等に依る。細井本には悲に作つてゐる。

四〇三四 **伊泥牟等多豆波**　泥は、多本に依る。底本には但に作つてゐる。

四〇三五 **安夜賣具左**　左は、底本等に依る。細井本には佐に作つてゐる。

加豆良尒藝武日　藝は、底本等に依る。細井本には勢に作つてゐる。

四〇三六 **伊可尒安流**　安は、底本等に依る。細井本には世に作つてゐる。

四〇三七 **由吉氐之見弖婆**　吉は、元暦校本等に依る。底本等には伎に作つてゐる。婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

四〇三八 **保等登藝須**　藝は、多本に依る。底本には伎に作つてゐる。

四〇三九 **奈久倍吉登伎尒**　吉は、元暦校本等に依る。底本等には伎に作つてゐる。

四〇四〇 **氣太之伎奈可受**　受は、元暦校本等に依る。底本等には須に作つてゐる。濁音の字を用ゐるべき處である。

波萬部余里　元暦校本には、部をへに作つてゐる。今、底本のまゝとする。萬葉集の文字は、全部漢字を用ゐてゐると言はれてゐるが、實は一二片假字を用ゐたのではないかと思はれるものがある。次の四〇四五、四〇四六の歌に於ける、支をキの假字に用ゐてゐるが如きこれである。へは、略體假字の中では早くから發生したものであつた。既に大寶二年の戸籍にも見え、その他正倉院文書にも散見してゐる。

る。本集に於いては通行本には見えないが、元暦校本、類聚古集の如き古寫本には、往々にして用ゐてゐる處がある。漢字の中にかやうな字體を混へ用ゐてゐるのは、元來原形が、略書の傾向に富んでゐたものと認められる。ただその草體のものにあつては、漢字の草書であるか、または平假字の原流であるかの區別がつき難い。その間にあつて、少數の省畫字が用ゐられてゐたかと言ふべきである。

四〇四四 **宇美邊欲里**　里は、元暦校本等に依る。底本等には利に作つてゐる。本卷に在つては、元暦校本と類聚古集と一致する字面のうち、誤と認められるものを除いて、一往これを原形として採用することとした。

四〇四五 **安我毛布支見我**　支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。支は、キの音の無い字であるに拘らず、これをキの音に用ゐてゐるのは、伎又は岐の省畫であらうと考へられる。省畫の假字と言ふべきであらう。

四〇四六 題詞 **至水海**　水海は、底本等に依る。細井本に水邊に作り、活字無訓本に氷邊に作つてゐる。

四〇四七 **許支米具利**　支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

四〇四八 **見礼登裳安可受**　元暦校本に、裳を毛に作つてゐる。類聚古集に也に作つてゐるのは毛に近い。訓假字の裳を此處に使つてゐること不審であるが、今、底本のまゝとする。

四〇四九 **介數乃日波**　波は、底本等に依る。細井本には婆に作つてゐる。

四〇五〇 **多努之久安曾敞**　努は、底本等に依る。細井本には奴に作つてゐる。

四〇五一 **移比都支尒勢牟**　支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

四〇五二 **宇良乎許具不祢**　不は、底本等に依る。細井本には夫に作つてゐる。

四〇五三 **奈良野和藝弊乎**　弊は、元暦校本等に依る。底本には敞に作つてゐる。

四〇五四 **吉美我伎麻佐婆**　婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

四〇五五 **夜麻保登等藝須**　登等は、元暦校本等に依る。底本等には等登に作つてゐる。

四〇五六 **伎奈伎等余米婆**　婆は、元暦校本等に依る。底本には波に作つてゐる。

四〇五一 **波太古非米夜母** 波は、底本等に依る。細井本には婆に作つてゐる。太は、濁音に讀む。

四〇五五 **伊都婆多野** 婆は、元暦校本等に依る。底本には波に作つてゐる。清濁いづれが是なるかを知らぬが、今、古本の傳來に依ることとする。

佐可尒蘇泥布礼 可は、元暦校本等に依る。底本等、加に作つてゐる。

和礼乎事於毛波婆 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つりゐる。

四〇五五 左註 **前件歌者** 件は、多本に依る。底本には伴に作つてゐる。

四〇五六 題詞 **太上皇** 太は、底本等に依る。細井本には大に作つてゐる。

清足姫天皇也 活字無訓本にこの六字が無いのは落したのである。

四〇五七 左註 **右一首** 諸本みな同様である。代匠記に、一は二の誤としてゐる。按ずるに、右何首件歌者の如き書き方は、他に例を見ない。或は右一首で切り、別に件歌者と文を起したものとも見られる。今、しばらく底本等のまゝとする。

四〇五八 **等乎能多知婆奈** 婆は、類聚古集に依る。底本等、波に作つてゐる。この處、前後みな婆である。

四〇五九 左註 **奏歌也** 也は、神田本等に依る。底本等にはこの字が無い。

四〇六〇 **等能乃多知婆奈** 婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

四〇六一 **都波良都波良尒** 類聚古集等、下の波を婆に作つてゐる。波兩字とも婆であるならばともかく、一方だけでは確にそれとも定め難い。今、底本のまゝとする。

四〇六二 **敷布美多里登母** 美は、底本等に依る。細井本には里に作つてゐる。

四〇六三 **伎美尒伎可勢牟** 下の伎は、類聚古集等に依る。底本等には妓に作つてゐる。妓は他に用ゐた例が無いから、伎を是とすべきであらう。

四〇六四 **乎里安加之母** 母は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四〇六五 **保等登蘂須** 等登は、底本等に依る。細井本には登等に作つてゐる。

四〇六六 **安須欲里波** 欲は、底本等に依る。細井本には餘に作つてゐる。

四〇六七 **擬主帳能登臣乙美作** 帳及び臣は、底本等に依る。

細井本には、張及び亘に作つてゐる。

四〇六〇 題詞 **牛麥花歌** 歌は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四〇六〇 左註 **因設飲饌** 因は、元暦校本等に依る。底本等には日に作つてゐる。

四〇六一 **故之能吉美良等** 良は、底本等に依る。細井本には能に作つてゐる。

四〇六二 左註 **子弟** 弟は、底本等に依る。活字附訓本以後、茅に作るのは誤である。

四〇六三 **奴婆多麻能** 婆は、元暦校本等に依る。底本等、波に作つてゐる。濁音の字を用ゐるべき處である。

四〇六四 **忽增戀□** 大矢本に、增を憎に作つてゐる外、諸本に異傳は無い。古義に戀の下に緒の字を脫してゐるといふは、傳聽すべきであるが、確に緒の字とも定め難いものがある。依つて今、一字分の空白を置くこととし、釋文はしばらく戀緒とするに從ふ。

四〇六五 **生別悲今** 今は、大矢本等に依る。底本等、号に作つてゐる。

夜麻許曾婆 婆は、底本等に依る。細井本は波である。此處は本來清音の字を用ゐるべきであるが、古本多く婆を用ゐてゐるのは、清濁通じ用ゐたものかと思はれる。

四〇六六 題詞 **我佐不之毛** 不は、底本等に依る。細井本は夫である。此處も濁音の字を用ゐるべき處であるが、古くより不を用ゐたものと思はれる。

四〇六七 **一所心歌** 歌は、底本等に依る。細井本には耳に作つてゐる。

四〇六八 **夜麻波奈久毛我** 波は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四〇六九 **佐久良婆奈** 久は、元暦校本等に依る。底本等、久を具に作つてゐる。婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

四〇七〇 **安賀未奈里家利** 元暦校本に賀を我に作つてゐる。賀は清濁に通じ用ゐてゐるから、今、しばらく底本のまゝとする。

四〇七一 **比奈能都夜故尒** 本居大平の說に、都夜故を夜都故の誤とし、奴の義としてから、諸說多くこれに從つてゐる。是であるが如くであるが、文獻の支持の無いのは遺憾である。元暦校本に能の字の無いのに依れば、夜故尒の間に脫字があるのかも知れないが、如何とも爲し難い。今、底本等のまゝとし、袖中抄に、ヒナノミヤコニと讀んでゐる訓を採る。

四〇八三 **都祢乃孤悲** 底本等、乃を能に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

美夜古欲里 底本等、里を利に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

四〇八五 題詞 **占墾地使** 占は、底本等に依る。細井本には古に作つてゐる。

大伴宿祢家持 伴は、底本等に依る。活字附訓本以後、件に誤つてゐる。

四〇八五 **夜伎多知乎** 伎は、底本等に依る。細井本には岐に作つてゐる。

伎美乎等登米牟 等登は、元暦校本等に依る。底本等には登等に作つてゐる。

四〇八六 題詞 **白合花縵** 白は、底本等多本に依る。細井本には百に作つてゐる。本巻目錄、白合花縵の條參照。

四〇八六 **安夫艮火乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四〇八七 **左由理婆奈** 左は、元暦校本等に依る。底本等には佐に作つてゐる。

四〇八八 **左由理婆奈** 婆は、元暦校本に依る。底本等、婆を波に作つてゐる。

由里毛安波牟等 里は、元暦校本等に依る。底本等には利に作つてゐる。

四〇八九 **伊末能麻左可毋** 末は、元暦校本等に依る。底本等には麻に作つてゐる。

安麻乃日繼登 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

可未能美許登能 未は、多本に依る。底本には美に作つてゐる。

伎吉乃可奈之母 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

和枳弖之努波无 无は、元暦校本等に依る。底本等には無に作つてゐる。

許己呂都奴枳弖 都は、底本等に依る。細井本には豆に作つてゐる。考に、宇の誤とし、コヽロウゴキテとしてゐるが、今、底本のまゝとする。日本靈異記興福寺本訓釋、悽、志々呂津古支之。

四〇九〇 **由久敝奈久** 底本等、この前行に、反歌の二字がある。今、元暦校本にその二字の一行が無いのに依る。以下元暦校本は特に反歌と斷らぬものが多い。この卷には底本等にも反歌と斷らぬものもあるのであるから、恐らくはこれを原形とするのであらう。

四〇九一 **登聞尓之奈氣婆** 登聞は、元暦校本に依る。底本

等には開に作つてゐる。いづれにしても大意は通ずるが、この歌は既に橘の花散る時に詠まれたものであるから、むしろ卯の花と共に鳴くとするを是とすべきであらう。

四〇九二 **保等登等藝須** 登は、底本等に依る。細井本には得に作つてゐる。

保登等等藝須 登等は、元暦校本等に依る。底本等には等登に作つてゐる。

橘乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四〇九四 **播奈治流等吉尓** 播は、元暦校本等に依る。底本等には幡に作つてゐる。

天乃日嗣等 嗣は、細井本等に依る。底本等には飼に作つてゐる。

多弖麻都流 都は、底本等に依る。細井本には豆に作つてゐる。

吾大王乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

多之氣久安艮牟登 底本等、多の下に能の字があり、これに依つて從來、樂しけくあらむとの義に解してゐた。しかしそれでは、能も氣も音聲が違つてゐる。今、萬葉集總索引の説に從つて、元暦校本に、能の字の無いのに依る。

東國乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

御食國波 元暦校本には御の字が無い。御食國の例は、吾大王乃御食國者（卷六、九五六）がある。但しそこも類聚古集等には、御の字が無い。今、底本のまゝとする。

大伴乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

大來目主等 等は、元暦校本等に依る。底本等には登に作つてゐる。

可敝里見波 敝は、底本等に依る。細井本には弊に作つてゐる。

勢自等許等太弖 太は、底本等に依る。細井本には大に作つてゐる。

於夜乃子等毛曾 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

佐伯乃氏者 乃は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

許等能都可左曾 左は、底本等に依る。細井本に

は佐に作つてゐる。

四〇九四 **由布能麻毛利余** 余は、底本等に依る。細井本には佘に作つてゐる。

大王乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四〇九五 **美許登乃佐吉乎** 同前。

四〇九六 **大伴乃** 同前。

之流久之米多弖 弖は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四〇九七 **美知乃久夜麻尓** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四〇九八 **安麻乃日嗣等** 同前。

於能我於弊流 弊は、底本等に依る。細井本には敞に作つてゐる。

四〇九九 **於能我名負** 底本等、名負の下にニニがあり、オノガナニナニと訓してゐる。しかし、それは意を成さぬし、且名負ニニをナニナニと讀むことも無理である。依つて、今、古義の説に從ひ、類聚古集にニニの無いのに依る。

五〇〇 **伊尓之敞乎** 底本等、この前行に、反歌の二字一行がある。今、元暦校本に無いのに依る。

四一〇一 **都麻乃美許登能** 登は、多本に依る。底本には等に作つてゐる。

夜床加多古里 諸本皆同じである。代匠記に古を左の誤としてゐるのは傾聽すべきが如くである。今、底本のまゝとする。

波奈多知婆奈尓 婆は、元暦校本等に依る。底本等には波に作つてゐる。

四一〇三 **都ニ美弖夜良婆** 同前。

四一〇四 **可豆久知布** 久は、元暦校本等に依る。底本等には具に作つてゐる。

四一〇五 **許己呂奈久佐尓** 久は、元暦校本等に依る。底本等には具に作つてゐる。慰むのクは、濁音の字を用ゐる例であるが、古本に久を用ゐてゐるに依れば、これも捨て難い。

伊保都追度比乎 追は、底本等に依る。細井本には々に作つてゐる。

我家牟伎波母 元暦校本等には伎の字が無い。上の歌の第五句の別案としても、原文のままでは意を成さない。今しばらく底本に依る。

四一〇六 小註 **尾張少咋** 咋は、底本等に依る。細井本には作に作つてゐる。

四一〇六 題詞 **序詞**

輙弃者 弃は、元暦校本等に依る。底本等には奇に作つてゐる。

不合弃之 同前。

得弃之 同前。

弃蠶之惑 同前。

多都流許等太弖 太は、底本等に依る。細井本には大に作つてゐる。

宇知奈氣支 支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。本巻この歌以後用字法に變化がある。

佐可里裳安良牟等末多之家牟 諸本に、佐可里裳安良多之家牟に作つてゐる。唯京都大學本の頭書に、佐可里裳安良牟等末多之家牟とあり、中院本の校本なる禁裏御本にかくあつたことを語つてゐる。今、これに依る。

波奈利居弖 諸本に波居弖とあるが、如何とも爲し難い。代匠記に、波の下に奈礼の二字脱とするをもとゝし、今、波奈利居弖とする。

那呉能宇美能 呉は、底本等に依る。寛永版本に至つて具に作つたのは誤である。

於支乎布可米天 支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

支美我許己呂能 同前。

須敞母須敞奈佐 敞兩字は、底本等に依る。元暦校本には、共に弊に作つてゐる。

四一〇七 題詞 **夫君之喚使** 君は、底本等に依る。細井本に妻に作つてゐるのは誤である。喚は、多本に依る。底本には愛に作つてゐる。

伊都伎之等乃尓 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四一〇八 **皇神祖乃** 同前。

波都波奈乎 下の波は、底本等に依る。細井本には婆に作つてゐる。

香具播之美 播は、元暦校本等に依る。底本等には幡に作つてゐる。

於杼弖可良之美 杼は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四一〇九 **之具礼乃雨零** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

久礼奈爲尓 底本等、礼奈爲の三字を朱書してゐる。元暦校本等にはこの三字が無く空白がある。仙覺の萬葉集註釋に依れば、この三字は仙覺が歌意に依つて補つたものである。今、これに依る。

四二二 **多知波奈乃** 前々條に同じ。

冬尒伊多礼婆 婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

之可礼許曾 底本に、可礼以下二十字は、その頁の最後の行に書き、記號を以つてこの位置に入れ換へるやうに示してゐる。今、多本に依る。

四二三 題詞 **庭中花作歌** 諸本皆同じである。代匠記初稿本に、庭の上に詠の字脫とし、同精撰本に、見の字脫としてゐる。目錄には詠の字がある。詠見等の字のあるべき處ではあるが、いづれを補ふべしとも知られない。初から不備の書法であつたのだらう。今、底本等のまゝとする。

於保支見能 支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

末支太末不 同前。

美由支布流 同前。

古之尒久多利來 多は、底本等に依る。細井本には太に作つてゐる。

等之乃五年 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

屋戸尒末枳於保之 枳は、多本に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

移弖見流其等尒 弖は、元暦校本等に依る。底本等には伎に作つてゐる。

安末射可流 末は、底本等に依る。細井本には麻に作つてゐる。

四二六 題詞 **長官之舘** 之は、底本等に依る。活字附訓本以後、世に作るのは誤である。

四二七 **於保支見能** 支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

末支能末尒こと 同前。

等里毛知氐 氐は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

也末古衣野由支 支は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

等之由吉我弊理 弊は、底本等に依る。細井本には敞に作つてゐる。

安我末川君我 川は、多本に依る。底本には津に作つてゐる。

四二八 **安比見流毛乃乎** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

年月經礼波 波は、底本等に依る。細井本には婆に作つてゐる。

四二九 **之怒比尒家禮婆** 怒は、元暦校本等に依る。底本等には奴に作つてゐる。この字は、怒の類の文字を用ゐるべき處であるから、怒を可とするであらう。

保等登伎須 伎は、元暦校本等に依る。底本等には藝に作つてゐる。

古非之吉物乃乎 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四三〇 題詞 **及相美人** 及は、元暦校本等に依る。底本には乃とし、直して及としてゐる。

賀都良賀氣 上の賀は、底本等に依る。細井本には加に作つてゐる。

四三一 **一云** 底本等、一の下に頭の字がある。今、元暦校本等に依つてこれを削る。

百姓田畝 田は、底本等に依る。細井本には由に作つてゐる。

四三三 題詞 **稍有凋色也** 凋は、元暦校本等に依る。底本等には彫に作つてゐる。但し底本は朱で消して左に凋を書いてゐる。また也の字が無い。

日能可左奈礼婆 婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

四三三 **許能見油流** 油は、底本等に依る。細井本には由に作つてゐる。

己許呂太良比尒 己許は、元暦校本等に依る。底本等には許己に作つてゐる。集中の假字書の例は、許己呂、己許呂を兩用してゐる。太は、底本等に依る。細井本に大に作つてゐる。

四三四 **可久之安良波** 元暦校本に波を婆に作つてゐる。濁音の字を用ゐるべき處であるが、次の歌にも多く波に作つてゐるから今、底本のまゝとする。

和多里母理 里は、底本等に依る。細井本には理に作つてゐる。

四三五 **曾乃倍由母** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

宇奈我既里爲弖 里は、底本等に依る。細井本には利に作つてゐる。

於毛保之吉 毛は、元暦校本等に依る。底本等には母に作つてゐる。

奈具左牟流 奈は、元暦校本等に依る。底本等には那に作つてゐる。

代人和礼毛 毛は、元暦校本等に依る。底本等には母に作つてゐる。

四一二五 **許己乎之母** 諸本、乎を宇に作つてゐる。代匠記にこれを乎の誤とするのは傾聽すべきである。今、これに依る。

年乃波其登尒 乃は、元暦校本等に依る。底本等、能に作つてゐる。

安麻乃波良 同前。

等之乃古非 同前。

四一二七 左註 **大伴宿祢家持作** 作は、底本等に依る。細井本には、この下に之がある。

四一二八 序詞 **宜急并滿** 急は、元暦校本等に依る。底本等には忽に作つてゐる。

徵使 徵は、元暦校本等に依る。底本等には徵に作つてゐる。

別白 白は、元暦校本に依る。底本等には日に作つてゐる。

不能默止 默は、元暦校本等に依る。底本等には點に作つてゐる。

准擬 准は、底本等に依る。細井本には唯に作つてゐる。

四一二九 **多比乃於伎奈等** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

奴波牟物能毛賀 賀は、底本等に依る。細井本には負に作つてゐる。

四一三一 **由可牟等於毛倍騰** 等は、元暦校本等に依る。底本等、登に作つてゐる。

四一三二 序詞 **面蔭見** 以上、多本に依る。底本には見を二つ書き、上の見を消してゐる。

心悲北風 北は、底本等に依る。寛永版本に比に作つてゐるのは誤である。

稍開來封 封は、細井本に依る。底本等多く、對に作つてゐる。寛永版本に、稍を梢に作つてゐるのは誤である。

四一三三 **云ㇾ** 底本等、ㇾが無い。今、元暦校本等に依る。

囉羅 略解に、羅を囉の誤としてゐるが、いまだ確定し難い。今、底本のまゝとする。

不伏使君記室 伏は、底本等に依る。細井本に仗に作り、活字無訓本に仗に作つてゐる。記は、底本等に依る。細井本には紀に作つてゐる。

安礼波安利家流 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

奴之能等乃度尒 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。なほ釋文に、等乃度に殿門の文字を宛てたのは、正倉院文書に依る。

四一三五 **伊麻波衣天之可** 波は、底本等に依る。細井本には婆に作つてゐる。

四一三六 **由吉乃宇倍尒** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

乎理天於久良牟 理は、多本に依る。底本には本文中に無く、右に書いてゐる。

四一三七 左註 **大伴宿祢家持作** 作は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四一三九 **都祢比等乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四一三九 題詞 **宴歌一首** 宴は、元暦校本に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

四一三九 **保与等理天** 理は、元暦校本等に依る。底本等には里に作つてゐる。

四一三八 題詞 **主帳** 帳は、底本等に依る。細井本には張に作つてゐる。

四一三八 左註 **大伴宿祢家持作** 家持作は、底本等に依る。活字無訓本以後、この三字を落した。

定本萬葉集卷第十九別記

目錄 七二頁 二行 **天平勝寶二年** 元暦校本には、以下目錄全部無く、直に本文を書いてゐる。今、底本に依つて目錄を存しておく。

詠桃李花 底本に、詠は本文中に無く右に書いてゐる。今、多本に依る。

三行 **見飜翔鳴** 飜は、底本等に依る。細井本には翻に作つてゐる。

九行 **船人之唱** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

一〇行 **大伴家持之舘** 家持之は、底本等に依る。細井本には、宿祢家持に作つてゐる。

二行 **白大鷹** 底本に、白は本文中に無く右に書いてゐる。今、多本に依る、また大は、細井本に依る。底本には太に作つてゐる。これは、本文題詞と一致する所である。

一三行 **澁谿埼** 谿埼は、底本等に依る。細井本には、溪崎に作つてゐる。

一五行 **豫作** 豫は、底本等に依る。細井本には預に作つてゐる。

一六行 **慕振勇士之名** 慕及び之は、底本等に依る。細井本には、慕を暮に作り、之の字が無い。

七三頁 一行 **時花** 底本等に依る。細井本には時の字が無い。

五行 **大宰之時** 底本等、大を太に作つてゐる。今、金澤文庫本等に依る。

春花 花は底本等に依る。苑であるべきだが目錄を作つた時に既に花であつたのだらう。本文參照。

七行 **不勝感舊之意** 底本等に、之意の二字が無い。活字附訓本にこの二字を加へたのは、大矢本系統の傳來に依つたのである。本文題詞にはこの二字がある。

九行 **感嘆公烏之情** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

一五行 **哽晩歌** 歌は、金澤文庫本等に依る。底本には本文中に無く左に書いてゐる。

七四頁 七行 **丹比家** 丹は、多本に依る。底本には舟に作つてゐる。

一〇行 **霖雨晴日** 晴は、底本等に依る。細井本には暗に作つてゐる。

一五行 **幸芳野宮時藤原皇后** 芳は、底本等に依る。細井本には吉に作つてゐる。細井本に時の下に皇后の二字があるのは誤であらう。寛永版本に后を右に作るのは、誤である。

七五頁 二行 **天平勝寶三年** 六字、底本等に依る。金澤文庫本、細井本には、この六字が無い。

一四行 **春日祭神之日** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

七六頁 二行 **越中守家持** 底本等に依る。細井本にはこの下に時がある。

三行 **椽久米廣縄之舘** 椽は、多本に依る。底本には様に作り、朱で消して右に椽を書いてゐる。之は底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四行 **國厨之饌** 厨之は、底本等に依る。細井本には府に作つてゐる。

八行 **椽久米朝臣廣縄** 椽は、多本に依る。底本に椽を様に作り、消して右に椽を書いてゐる。

椽大伴池主 同前。

二行 **向京路上依興預作侍宴** 以上、底本等に依る。細井本には同京洛上詩宴に作つてゐる。

一三行 **預作歌** 歌は、底本等に依る。活字無訓本にはこの字が無い。

一五行 **餞之入唐副使** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字があるのは誤であらう。

七七頁 一行 **遣於難波** 於は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

七八頁 二行 **藤原卿家之時** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

黄葉澤蘭 葉は、底本等に依る。細井本には紫に作つてゐる。

三行 **陪從大夫** 陪は、底本等に依る。活字附訓本には倍に作つてゐる。

六行 **餞之但馬按察使** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

九行 **拙懐** 拙は、底本等に依る。細井本には惾に作つてゐる。

四二五頁 題詞 **作二首** 底本等、作の下に歌の字がある。今、元暦校本等にこの字の無いのに依る。有るを通例とするのであるが、古本の傳來を採ることとする。

四二九頁 **下照道尓** 照は、多本に依る。底本には昭に作つてゐる。

四一〇 **遣在可毋** 在は、底本等に依る。活字無訓本以後、有に作つてゐる。

四〇一 題詞 **見驫翔鳴** 見驫は、底本等に依る。細井本には飛翻に作つてゐる。活字附訓本に、見飛翻に作つてゐるのは、この兩樣の傳來を併せたのである。

四〇一 **物悲尒** 物は、多本に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

四〇三 **大路所念** 念は、元暦校本等に依る。底本等には思に作つてゐる。

四〇三 **物部乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等、能に作つてゐる。

四〇三 **八十嬬嬬等之** 底本等、十の下に乃がある。今、元暦校本等に無きに依り、訓もまたこれに從ふ。

四〇三 **不超來有米也** 超は、元暦校本等に依る。底本等には越に作つてゐる。

四〇四 題詞 **聞千鳥喧歌** 喧は、元暦校本等に依る。底本等には鳴に作つてゐる。

四〇四 **寐覺而居者** 寐は、底本等に依る。細井本には寢に作つてゐる。

情毛之努尒 毛及び努は、元暦校本等に依る。底本等、毛を母に、努を奴に作つてゐる。之努尒の努は、怒の類の文字を使ふべき處である。

之努比來尒家礼 努は、元暦校本等に依る。底本等、努を奴に作つてゐる。この努も同前である。

四〇五 題詞 **船人之唱** 之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四〇五 **思標之** 思は、底本等に依る。元暦校本、細井本には、この字が無い。類聚古集には、思の下に而がある。

四〇五 **桙浮而** 桙は、金澤文庫本に依る。底本等には檝に作つてゐる。これは桙の俗體と認められる。元暦校本に桙に作つてゐるのも、桙を誤つたものであらう。

花縵世余 余は、細井本に依る。元暦校本には尒に作り、右に墨書で余とある。底本等、奈に作つてゐる。奈ならば、作者自身の爲さむと思ふ事を述べる意になるが、此處は四句からの續きで、他に對して希望を現してゐるものと認められるから、なほ余を是とすべきであらう。

四〇五 題詞 **白大鷹** 大は、元暦校本等に依る。底本等には太に作つてゐる。

四〇五 **安志比奇乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

山坂超而 超は、元暦校本等に依る。底本等には越に作つてゐる。

四〇七 **安波勢也理** 理は、元暦校本等に依る。底本等には里に作つてゐる。

四〇七 **矢形尾乃** 底本に、この前の行間に別筆で反歌とある。反歌の一行のあるのは、細井本のみである。以下この類は、すべて底本に從ふ。

四〇七 題詞 **幷短歌** 三字、底本等に依る。細井本にはこの三字が無い。

四〇七 **奈頭佐比由氣婆** 以上は、元暦校本等に依る。底本には婆を波に作つてゐる。細井本には頭佐の二字を津左としてゐる。前後字音假字を多く用ゐてゐるから、なほ頭をよしとするであらう。

四〇七 **紅乃** 細井本、前行に反歌の一行がある。今、底本等に無いのに依る。乃は、元暦校本等に依る。底本等に、乃の字が無い。訓には關係は無いが、ある方が讀み易い。

四〇七 **吾等眷牟** 眷は、底本等に依る。元暦校本に春に作り、活字無訓本に看に作るのは、誤である。

四〇七 **神左備尒家里** 左は、元暦校本等に依る。底本等には佐に作つてゐる。

四〇七 **盈呉之家里** 呉は、金澤文庫本に呉に作るに依る。底本等、多く興に作つてゐる。

四〇八 **等騰未可祢都母** 未は、元暦校本に依る。底本等には米に作つてゐる。動詞トドムの連用形は、トドミ、トドメの兩形を存してゐるが、カネに接續する場合は、余能許等奈礼婆等登尾可祢都母（卷五、八〇五）など、トドミの形を以つてしてゐる。

四〇八 **言等波奴** 細井本には、この前行に反歌の一行がある。今、底本等に無いのに依る。

四〇八 **秋都氣婆** 婆は、底本等に依る。細井本波である。

四〇八 **知智乃實乃** 實は、底本等に依る。細井本には、寶に作つてゐる。

四〇八 **大夫者** 細井本には、この前行に反歌の一行がある。今、底本等に無いのに作る。

四〇九 **宇知嘆** 嘆は、底本等に依る。細井本、歎である。

四〇九 **可多里都藝都流** 里は、元暦校本等に依る。底本等には理に作つてゐる。

四〇九 **野干玉乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には之に作つてゐる。

四〇九 **見良久之余志母** 母は、元暦校本等に依る。底本等には毛に作つてゐる

四〇九 **預作也** 預は、底本等に依る。細井本には豫に作つ

てゐる。元暦校本に須に作つてゐるのは、頭を誤つたものであらう。

四一六九　**咲尒保布**　咲は、底本等に依る。細井本には笑に作つてゐる。

余曾能未見都追　見は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

夜須家奈久尒　底本等、家の下に久の字がある。しかしこの語は、形容詞の安けにナクが接續した形と認められ、安けくなくにといふ語法は無いのであるから、元暦校本にその久の字の無きを是とするのである。

四一七九　左註　**御面謂之美於毛和**　八字、底本等に依る。細井本にはこの八字が無い。

四一八〇　題詞　**反歌**　底本等には反歌一首としてゐる。今、元暦校本に一首の二字無きに依る。すべて反歌は、二首以上の場合に歌數を記す事があるが、一首の場合は數を記さないことが多い。

四一八三　**來喧響者**　喧は、元暦校本等に依る。底本等には鳴に作つてゐる。

四一八四　題詞　**大宰之時**　大は、元暦校本等に依る。底本等には太に作つてゐる。

春苑　底本等、諸傳本悉く春花に作つてゐる。しかし春花では意を成さぬのであるから、今、略解に春苑の誤とするに從ふ。

四一八七　**念暢**　暢は、元暦校本等に依り、オモヒノベと讀むこととする。底本等には鴨に作り、二字をオモフカモと訓してゐる。オモヒノベの語例は、すぐ近く、伊伎騰保流許己呂能宇知乎思延（巻十九、四一五四）の例がある。

松之狹枝尒　狹は、底本等に依る。細井本には佐に作つてゐる。

安寐不令宿　寐は、底本等に依る。細井本には寢に作つてゐる。

四一八八　**吾耳**　底本、前の行間に別筆で反哥とある。今、これを採らない。この句、古くヒトリノミ、ワレヒトリの訓があり、後、考にワレノミ、古義にワレノミシの訓が出てゐる。參考として吾耳爲而清川原乎見良久之惜裳（巻六、九一三）の例があり、ヒトリノミと讀むこと、必しも無理では無い。依つて舊訓を採る。

丹生之山邊尒　丹は、多本に依る。底本には舟を直してある。

伊去鳴尒毛　尒毛は、多本に依る。底本にはこの二字は左に小字で書いてゐる。誤字説もあるが、原形のまゝで解せられないものでも無い。依つてもとのまゝとする。

四一七九　**和我世世兒乎**　底本等、和の字が無い。今、元暦校本等に依つて補ふ。無くても通ずる處であるが、今、古本に依る。

安宿勿令寐　寐は、底本等に依る。細井本には寢に作つてゐる。

四一八〇　**菖蒲**　菖は、底本等に依る。細井本には昌に作つてゐる。

可頭良久麻泥尒　泥は、元暦校本等に依る。底本等には而に作つてゐる。今、濁音の假字を是とすべきであらう。細井本に良の下に沼のあるのは誤であらう。

四一八三　**霍公鳥**　元暦校本に、公を氏に作つてゐる。通例、霍公鳥であるが、霍氏鳥とも書いたものであらう。今しばらく底本のまゝとする。

四一八四　**來向夏波**　波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

四一八六　左註　**留女之女郎**　女は、諸本皆同じであるが、何かの誤字であらう。考には鄉の誤とし、略解には鄉又は京の誤としてゐる。いづれであるか決定し難いから、今、しばらくもとのまゝとする。郎は、底本等に依る。活字無訓本には良に作つてゐる。

四一八七　**屋戸尒引殖而**　殖は、底本等に依る。元暦校本等は植である。古文では木を植ゑる場合に、常に殖の字を用ゐてゐる。此處もしばらく底本に依ることとする。

戀志繁母　底本等、この下に朱で江家の二字があるが、活字附訓本にこれを入れたのは誤である。

四一八八　**山吹乎**　細井本に、前行に反歌の一行がある。今、底本等に無いのに依る。

許乃久礼　乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

白波左和伎　波は、底本等に底る。細井本には浪に作つてゐる。

旅年乃波尒　乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

藤奈美能　底本等、この歌が無い。但し底本には行間に別筆で書いてゐる。今、元暦校本等に依る。細井本に、前行に反歌の一行がある。今、元暦校本等

に無いのに依る。

四一八九 **等毛奈倍立而** 細井本に、毛の下に〻があるのは誤である。

舛羅河 舛は底本等に依る。元暦校本等に升に作つてゐるが、反歌の方ではやはり舛に作つてゐる。舛は、叔の異體字と考へられる。細井本には叔に作つてゐる。考には舛を新の誤とし、全釋にはもとのまゝでシラギガハと讀んでゐる。今、訓を缺く。

早湍尒 細井本には、尒の下に波がある。今、底本等多本に依る。

四一九一 **水烏乎潜都追** 烏は、底本等に依る。活字無訓本には鳥に作つてゐる。

波之伎和我勢故 底本に、この下に朱で江家の二字がある。活字附訓本にこれを入れたのは誤である。

四一九二 **宇可波多ゝ佐祢** 可は、底本等に依る。細井本には河に作つてゐる。

情奈具左尒 底本に、この下に朱で江說の二字がある。活字附訓本に江家の二字を入れたのは誤である。

四一九三 左註 **之我波多波** 波兩字は、底本等に依る。細井本には、兩字とも婆に作つてゐる。

面輪乃宇知尒 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

咲麻我理 咲は、多本に依る。底本には嗟に作り、消して右に咲を書いてゐる。

繁谿邊乎 谿は、底本等に依る。細井本には溪に作つてゐる。

四一九四 **呼等余米** 底本等には、呼等米尒に作り、メスラメニと訓してゐるが、この訓では語法を成さぬのである。今、元暦校本に呼等尒米に作るに依り、尒を余の誤として、ヨビトヨメと訓すべきものと思はれる。これは代匠記初稿本に於ける書入の說に適ふのである。

四一九五 左註 **袖尒古伎納都** 納は、底本等に依る。細井本には礼に作つてゐる。

四一九六 **斯努波久不知尒** 努は、元暦校本等に依る。底本等には奴に作つてゐる。

四一九七 **敲自努比** 敲は、細井本に依る。底本等には敍に作つて居る。元暦校本に歌に作つてゐるのは、敲を誤つたのであらう。

麻泥騰伎奈可奴 泥は、底本等に依る。細井本には低に作つてゐる。清音の處であるが、しばらく底本等に依る。

霍公鳥可母 元暦校本に、公を氏に作つてゐるのは、注意すべきである。四一八二參照。

四一九八 左註 **留女之女郎** 前の四一八四の左註の場合と同樣である。

大伴家持 元暦校本には、大の上に守があるのは、是とすべきであるかも知れぬ。今、底本等に依る。

四一九九 題詞 **多祜灣** 祜は、元暦校本等に依る。底本等に、祐に作つてゐる。

望見藤花 見は、多本に依る。底本に、月に作り、消して右に見を書いてゐる。

四二〇〇 **藤奈美乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

多祜乃浦能 祜は、底本等に依る。活字附訓本に祐に作るのは誤である。

四二〇一 **多祜乃浦尒** 祜は、底本等に依る。寛永版本に至つて祐に誤つてゐる。

四二〇二 **皇神祖乃** 神祖は、底本等に依る。細井本には祖神に作つてゐる。

四二〇七 題詞 **霍公鳥** 元暦校本等、鳥の下に歌の字がある。今、底本等に無いのに依る。

時乎麻太之美 太は、類聚古集に依る。底本等には多に作つてゐる。元暦校本に大に作つてゐるのは、太の誤であらう。

四二〇九 左註 **安志多尒波** 尒は、底本等に依る。細井本には太に作つてゐる。

四二一〇 **椽久米朝臣廣縄和** 椽は、多本に依る。底本には様に作り、朱で消して右に別筆で椽を書いてゐる。また和の字を小字で書いてゐる。今、多本に大字とするに從ふ。

四二一一 題詞 **追同處女墓歌** 同は、底本等に依る。細井本には和に作つてゐる。

宇奈比壯子乃 壯は、多本に依る。底本には牡に作つてゐる。

四二一二 **名乎競爭登** 登は、多本に依る。底本には等に作つてゐる。

身之壯尚 壯は、金澤文庫本に依る。底本等、荘に作つてゐる。

四二一三 **生而靡有** 而は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

後乃表跡 乃は、元暦校本等に依る。底本等、能に作つてゐる。

四二一七 **安由乎疾** 疾は、底本等に依る。細井本にはこの下

に美がある。

四二三　**奈呉乃浦廻尒**　底本等、乃を能に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

戀度可母　底本等、度を渡に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

四二四　**正不遇**　不遇は、底本等に依る。細井本には過に作つてゐる。

宇都勢美毛　宇は、底本等に依る。活字附訓本以後、守に作るのは誤である。

消去之如　消は、底本等に依る。細井本には清に作つてゐる。

枉言哉　枉は、底本等に依る。金澤文庫本等狂に作つてゐる。

四二六　左註　**五月廿七日**　以上、底本等に依る。細井本には無い。

四二七　題詞　**霖雨晴日**　晴は、底本等に依る。細井本には晴に作つてゐる。

四二〇　**比伎能麻尒麻仁**　仁は、底本等に依る。細井本等、仁を尒に作つてゐる。元來マニマニは、マニマに助詞ニが接續して出來たものと認められるのであり、麻尒麻仁の如き書き方も有り得るのである。

和可礼尒之　可は、底本等に依る。細井本には我に作つてゐる。

四二二　**等乎牟麻欲妣伎**　妣は、底本等に依る。細井本には比に作つてゐる。

古非之久安良波　底本等、非を悲に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。また底本等に、久の下に志がある。今、元暦校本等の無きに從ふ。しかしいづれにしても通ずる處であり、志の字のある傳來も捨て難い。

末蘇可我美旅奴比等吉奈久　美旅は、底本等に依る。細井本には旅美に作つてゐる。美と旅とは、同じ音聲で、いづれでも通ずる。

四二三　左註　**掾久米朝臣廣縄**　掾は、多本に依る。底本には様に作り、朱で消し、右に掾を書いてゐる。

四二三　**都知尒於知米也毛**　毛は、底本等に依る。細井本には母に作つてゐる。

芳野宮　芳は、底本等に依る。細井本には吉に作つてゐる。

四二四　左註　**藤原皇后**　底本に、后の右下に宮を書き入れてある。今、多本に依る。

四二五　**公之超麻久**　超は、底本等に依る。細井本には越に作つてゐる。

四二六　左註　**藤原北卿**　北は、底本等に依る。細井本には比に作つてゐる。

依誦之也　依は、元暦校本等に依る。底本等には作に作つてゐる。

四二九　**年之初者**　之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四三〇　左註　**零雪**　雪は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四三一　題詞　**縣犬養命婦**　犬は、底本等に依る。細井本に大に作るのは誤である。

四三二　**富呂尒布美安太之**　太は、底本等に依る。細井本には多に作つてゐる。

四三三　題詞　**作主未詳**　四字、底本に依る。細井本にはこの四字が無い。

四三六　**吾妻離流**　元暦校本に流の字を小字に書いてゐる。この歌中になほ、將作爲便不知尒め尒、手尒取持氏の氏等はいづれも小字としてゐる。これは恐らく、もと宣命書きであつたものが、その形を殘してゐるものであらうと思はれる。なほ四二六四の歌の條參照。

肩尒取挂　挂は、元暦校本等に依る。底本等には掛に作つてゐる。

四三七　**倭文幣乎**　文は、元暦校本等に依る。底本等には父に作つてゐる。但し元暦校本には幣を弊に作つてゐるが、これは底本のまゝとする。

手尒取持氏　手及び氏は、底本等に依る。細井本には手が無く、氏を而に作つてゐる。

巻而寐之　寐は、底本等に依る。細井本には寢に作つてゐる。

寤尒等　寤は、底本等に依る。細井本には寢に作つてゐる。

手本巻寐等　寐は、元暦校本等に依る。底本等、寤に作つてゐる。

四三八　題詞　**二月二日**　二日は、底本等に依る。細井本には三日である。目錄にはすべて二日とあり、それを三日の誤とする說のあるのは却つて誤である。

守舘　守舘は、底本等に依る。細井本には舘守に作つてゐる。

四三八　**吾縷可牟**　縷は、底本等に依る。細井本に　蔑に作つてゐる。

四三九　**許毛□尒之彼霍公鳥待騰來奈賀受**　底本には許毛尒之波霍公鳥待騰未來奈賀受に作つてゐる。今の

字面は、元暦校本に依り、毛の下にリに相當する字を補ふのである。ただその字が里であるかどうかを知らないから空白にしておく。これを以つて原形と爲すべきであらう。

四二四〇 題詞 **清河** 底本等、この下に小字に、參議從四位下遣唐使の九字がある。今、元暦校本等に依りて削る。

四二四三 **卽主人卿作之** 六字、底本等に依る。細井本にはこの六字が無い。

四二四三 題詞 **多治眞人土作** 土は、底本等に依る。細井本には古に作つてゐる。

四二四五 **靑丹与之** 丹は、多本に依る。底本には舟を直してゐる。

平城京師由 元暦校本に由の字を小字としてゐるのは、宣命書きの形が殘つたものであらう。

三津厶舶能利 舶は、多本に依る。底本には船に作つてゐる。

礒乃埼と 埼は、底本に依る。細井本には崎に作つてゐる。

四二四六 題詞 **反歌** 底本等、この下に一首の二字がある。今、元暦校本に依り削る。

四二四八 序詞 **忽値** 忽は、底本等に依る。活字附訓本に勿に作るのは誤である。

四二五〇 題詞 **大帳使** 帳は、底本等に依る。活字無訓本に悵に作るのは誤である。

四二五〇 **惜初夜可毛** 毛は、元暦校本等に依る。底本等には母に作つてゐる。

四二五二 題詞 **餞饌之宴** 饌は、元暦校本等に依る。底本等には饌餞に作つてゐる。

于此 此は、元暦校本等に依る。底本等には時に作つてゐる。

大帳使 帳は、底本等に依る。活字無訓本に悵に作るのは誤である。

折而挿頭奈 挿は、底本等に依る。細井本には捽に作つてゐる。

四二五二 **挿頭都流波疑** 同前。

四二五四 題詞 **向京路上** 路は、底本等に依る。細井本には洛に作つてゐる。

歌一首 一首は、底本等に依る。活字無訓本にはこの二字を落してゐる。

四二五四 **食國之** 底本並に元暦校本等には、之を毛に作つてゐる。しかし上の物部の八十伴の雄もに對しては、食國の四方の人をもの方が對句を成すのであり、食國もでは、列擧になつて混亂を感じさせる。依つて今、金澤文庫本等に之に作るに依る。

四二五五 **安夫左波受** 夫は、略解の説に依る。底本等すべて天に作つてゐる。

恨賜者 恨は、底本等に依る。細井本には慇に作つてゐる。

安夜厶貴左 底本に、この下に朱で江とあるが、活字附訓本にこれを入れたのは誤である。

四二五七 **吾大主波** 主は、底本等に依る。細井本には王に作つてゐる。

君者立之奴 之は、元暦校本等に依る。底本等には去に作つてゐる。京都大學本には、禁裏御本に依つて、行間に朱で、君者立之奴松本左京兆本基長卿本比同とある。これを以つて見ても、これが古き形である事が知られる。

四二五七 左註 **未詳作主也** 主は、多本に依る。底本には至に作つてゐる。

四二五一 **皇都常成通** 通は、底本等に依る。細井本には都に作つてゐる。

四二五一 小註 **作者未詳** 未は、元暦校本等に依る。底本等には不に作つてゐる。細井本にはこの四字が無い。

四二五二 小註 **作者未詳** 者は、元暦校本等に依る。底本等には主に作つてゐる。

虛見都 底本等、この歌を宣命書きにしてゐる。細井本にすべて同大の文字としたのは誤であらう。

と能倍奈良倍 以上、底本には大字にしてゐる。今、元暦校本に能倍奈良倍の五字を小字とせるに從ふ。

斯豐御酒者 斯は、元暦校本等に依る。底本には期に作つてゐる。

四二五五 **早還來等** 底本等、等を小字に書いてゐる。細井本に同大の文字としたのは誤であらう。

四二五六 **見爲今日者** 日は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

保吉等餘毛之 底本等、保の下に伎の字がある。今、元暦校本に依り削る。

四二五七 **見之貴者** 者は、底本等に依る。細井本には左に作つてゐる。底本等、この下に朱で江説の二字があるが、活字附訓本にこれを入れたのは誤である。

見爲安伎良目米 米は、多本に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

四三三　左註　**巨勢朝臣**　巨は、底本等に依る。細井本に臣に作るのは誤である。

四三五　**久万氐尒**　尒は、底本等に依る。細井本等にこの字が無い。

四三五　左註　**文室智努眞人**　文屋智努は、元暦校本に依る。底本等には文室智努を文屋知奴麻呂に作つてゐる。この人の名は、巻十七には智奴王とあり、佛足跡碑銘には文室眞人智努とある。なほ細井本に文を父に作つてゐるのは誤である。

四三七　**藤原永手朝臣**　手は、元暦校本等に依る。底本等には平に作つてゐる。底本、右に手歟とある。

四三八　**梅乎之努波牟**　努は、元暦校本等に依る。底本等には奴に作つてゐる。

四三〇　左註　**右京少進**　右は、底本等に依る。細井本にはこの字を落してゐる。

四三一　**越由加牟**　加は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

四三三　**戀哉許母礼留**　母は、底本等に依る。活字附訓本に爾に作るのは誤である。

四三八　**宮裏**　底本等、宮の下に乃の字がある。今、元暦校本等に依り削る。

四三九　題詞　**二月十九日**　二月は、底本等に依る。細井本には十二月に作つてゐる。

四二九　**霞多奈毗伎**　毗は、底本等に依る。細井本には妣に作つてゐる。

四三一　**比登里志於母倍婆**　登は、元暦校本等に依る。底本等には等に作つてゐる。

四三二　左註　**春日遲ヶ**　細井本には、もと以下の記事の全文が無く、細井貞雄の筆跡で書き入れてある。今、底本等に依る。

不稱　稱は、元暦校本等に依る。底本等には傍に作つてゐる。

裁作歌詞也　活字附訓本に、この下に異本左注也の五字があるのは、後人の書入である。

定本萬葉集卷第二十別記

目錄一〇七頁　三行　**幸行於山村之時**　以下の目錄には、底本、元暦校本、及び細井本を以つて代表とする三系統があり、對立してゐる（萬葉集書志一五七頁三本對比萬葉集卷第二十目錄參照）。今、底本の目錄に依る。他本の目錄は、單に文字を決定するに當つて、參考とするに止める。

五行　**八月十二日**　二は、本文題詞及び元暦校本等に依る。底本には三に作つてゐる。

七行　**大伴家持之宅**　之は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

九行　**皇大后**　大は、底本等に依る。細井本等には太に作つてゐる。

在於東常宮　於は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

肆宴歌　肆宴は、底本等に依る。細井本には時播磨國守安宿王奏に作つてゐる。

一二行　**三月十九日**　三月は、底本等に依る。細井本には、この上に同の字がある。

宴飲歌　飲は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

一三行　**同月廿五日**　月は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

一四行　**詠霍公鳥**　以上、底本等に依る。細井本にはこの上に、同四月大伴家持の七字がある。

一六行　**大伴宿祢家持歌**　宿祢は、底本等に依る。細井本にはこの二字が無い。また細井本には持の下に作の字がある。

一〇八頁　一行　**兵部少輔大伴宿祢家持獨憶秋野**　兵部少輔、及び獨は、底本等に依る。細井本には、これらの字が無い。

二行　**天平勝寶七歲**　天平勝寶は、底本等に依る。細井本には、同に作つてゐる。

諸國防人等歌　以上、底本等に依る。細井本には、諸の字が無く、歌の下に七首の二字がある。

三行　**二月六日**　二月は、底本等に依る。細井本には同に作つてゐる。

進歌七首　七は、底本等に依る。細井本には三に作つてゐる。

一〇八頁 五行 **二月七日** 二月は、底本等に依る。細井本には、同に作つてゐる。

六行 **進歌三首** 三は、底本等に依る。細井本には、一に作つてゐる。

七行 **二月八日** 二月は、底本に依る。細井本には同に作つてゐる。

九行 **悲別之心** 之心は、底本等に依る。細井本には忌に作つてゐる。

一三行 **大伴宿祢家持** 宿祢は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

一三行 **部領防人使** 本文にも、前後多くは防人部領使とし、ただ常陸、武藏の二國のみ、部領防人使とある。依つて今、底本の傳來のまゝとする。細井本もこれに同じである。

一四行 **進歌十首** 十首は、底本等に依る。細井本には十一首に作つてゐる。

一〇九頁 四行 **同十九日大伴家持** 大伴家持は、底本等に依る。細井本には、兵部少輔大伴家持に作つてゐる。

五行 **進歌三首** 以上、底本等に依る。細井本には、この上に、上道得病者來の六字がある。また活字附訓本には、三を四に作つてゐる。

六行 **正六位下** 下は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

八行 **同廿三日兵部少輔大伴宿祢家持** 以上、底本等に依る。細井本には、この十四字が無く、次行以下に次の十三行がある。これは、細井本系統の目錄は、はじめ巻の二十が、武藏の國の防人の歌の途中に終つてゐる本に依つて目錄を取り、後、他の本に依つて補つた爲に生じた形と認められる。今、底本等に依り、これを採らぬのである。

同廿三日兵部少輔大伴宿祢家持三首
上丁那珂郡檜前舍人石前之妻大伴部眞足女一首
助丁秩父郡大伴少歲一首
主張荏原郡物部歲德一首
妻椋椅部刀自賣一首
豐島郡上丁椋椅部荒虫之妻宇遲部黑女一首
荏原郡上丁物部廣足一首
橘樹郡上丁物部眞根一首
妻椋椅部弟女二首
都筑郡上丁服部於田一首
妻服部呰女一首
埼玉郡上丁藤原部等母麿一首

妻物部刀自賣一首

一〇行 **同廿日** 同は、底本等に依る。細井本には二月に作つてゐる。

二行 **進歌十二首** 十二は、底本等に依る。細井本には數・廿に作つてゐる。なほ細井本には十二首の下に、但拙劣者不載の六字がある。

三行 **昔年防人歌八首** 以上、底本等に依る。細井本には、この一行が無い。

一五行 **陁妙觀** 陁は、底本等に依る。細井本には、陋に作つてゐる。

一六行 **石川朝臣** 川は、多本に依る。底本には河に作つてゐる。

一〇頁 五行 **宅歌三首** 三は、底本等に依る。細井本には一に作つてゐる。

八行 **肆宴歌二首** 二は、多本に依る。底本には、三とあつたのを直してゐる。

二行 **陁妙觀命婦等** 陁は、底本等に依る。細井本には陋に作つてゐる。

三行 **陁妙觀命婦** 同前。

一五行 **經信** 信は、多本に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

一七行 **依興作** 底本に、作の右下に歌の字があり、作の下に入るべき記號を附してゐる。細井本等には、作の下に歌の字がある。この目錄は、本文四四六四の左註の文に依つて作つたものと認められるので、今、無きに從ふ。

一一頁 一行 **欲修道** 底本に、欲を歎に作つてゐる。今、元暦校本に依る。

三行 **小雷夜** 雷は、底本等に依る。細井本には雪に作つてゐる。

五行 **出雲様** 雲は、多本に依る。底本には家とし消して右に雲を書いてゐる。

九行 **飲宴歌二首** 飲は、元暦校本等に依る。底本にはこの字が無い。二は、底本等に依る。細井本には三に作つてゐる。

二行 **佐保川邊** 川は、多本に依る。底本には河に作つてゐる。

七行 **大伴宿祢家持歌一首** 一は、神田本等に依る。底本等には二に作つてゐる。

一三頁 一行 **肆宴歌二首** 歌は、底本等に依る。活字無訓本にはこの字を落してゐる。

四行 **應詔旨各陳心緒歌二首** 活字無訓本に、以上十字

を落してゐる。

二三頁 表行 **以作林帷** 作は、底本等に依る。活字無訓本には、この字を落してゐる。また細井本には、帷を惟に作つてゐる。

九行 **渤海大使** 渤は、多本に依る。底本には淳に作つてゐる。

小野田守 小は、底本等に依る。細井本には少に作つてゐる。

三行 **宴歌一首** 一首は、底本等に依る。細井本にはこの二字が無い。

四三九四 左註 **請問之間** 間は、底本等に依る。活字無訓本以後、間に誤つてゐる。

大伴宿祢家持 宿祢は、底本等に依る。細井本にはこの二字が無い。

四三九五 題詞 **天平勝寶五年** 以上、底本等に依る。細井本にはこの六字が無い。以下天平勝寶五年の作であつて、あるを可とするであらう。

四三九七 **乎美奈弊之** 弊は、多本に依る。底本には敞に作つてゐる。

四三九八 **安良礼多婆之里** 婆は、多本に依る。底本には波に作つてゐる。

四三九八 左註 **安礼波麻爲許牟** 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

大伴宿宿千室 室は、底本等に依る。細井本には里に作つてゐる。

四三九九 **安良多ここに尓** 良多は、底本等に依る。細井本に多良に作つてゐるのは誤である。

四四〇一 題詞 **皇大后** 大は、底本等に依る。細井本には太である。

在於 在は、元暦校本に依る。底本等にはこの字が無い。

四四〇二 **伎美伎麻之都ヒ** 下の伎は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四四〇三 左註 **提壺到來** 底本に、壺の右下に酒の字があり、壺の下に入るべき記號を附してゐる。

四四〇四 左註 **不攀誦耳** 溫故堂本等、攀を擧に作つてゐるのは、代匠記の説に適ふ。しかしいまだ必しも攀誦を誤とも決定し難いから、底本のまゝとする。

四四〇五 **奈伎弖故由奈理** 理は、底本等に依る。細井本には里に作つてゐる。

四四〇七 **秋等伊閇婆** 閇は、底本等に依る。細井本には弊に作つてゐる。

花仁奈蘇倍弖 仁は、底本等に依る。細井本には尓に作つてゐる。

四四〇八 **ここ尓見牟登之** ここは、元暦校本に依る。底本等、波名に作るが、この七夕歌八首の中に訓假字は他に用ゐてゐない。なほ細井本には波の字が無い。

四四一〇 **伊之奈流於可婆** 婆は、元暦校本等に依る。底本等には波に作つてゐる。

四四一三 **佐加牟波奈乎之** 佐は、底本等に依る。活字無訓本には左に作つてゐる。

四四一四 **見都追思努波奈** 努は、元暦校本等に依る。底本等には怒に作つてゐる。

四四一九 **多乎良受弖** 乎は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

須具之弖牟登香 具は、多本に依る。底本には其に作つてゐる。

四四二〇 **牟奈和氣由加牟** 加は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

四四二一 **加曳我牟多祢牟** 以上、元暦校本に依る。底本等には、加曳我伊牟多祢乎に作つて、カヘカイムタネヲと訓してゐる。しかしこれでは意味を成さない。今、元暦校本に依つて、カエガムタネムと讀む。草が共寐むの意と爲すべきである。

四四三一 左註 **主帳丁** 帳は、底本等に依る。細井本には、張に作つてゐる。

四四三二 **佐吉泥己受祁牟** 泥は、底本等に依る。細井本には、但に作つてゐる。

四四三四 **安比弖之阿良婆** 婆は、元暦校本等に依る。底本等には波に作つてゐる。

四四三七 **多比由久阿礼波** 波は、多本に依る。底本には婆に作つてゐる。元暦校本に、比を妣に作つてゐるが、孤立的の傳來であるから、今、これを採らない。

四四三九 **那尓波尓都度比** 那は、底本等に依る。元暦校本には、奈に作つてゐる。

美毛比等母我毛 下の毛は、元暦校本等に依る。底本等には母に作つてゐる。

氣布能比夜 比は、元暦校本等に依る。溫故堂本等、左に「比古本六本」とある。底本には、日である。前の歌にも日の意味に比の字を使つてゐる。

四四四〇 左註 **鎌倉郡** 郡は、多本に依る。底本に、郡を部に作り、朱で消して右に別筆で郡を書いてゐる。

四四四一 **等保能朝庭等** 庭は、底本等に依る。細井本には廷に作つてゐる。

四三三一 **加敞里見世受弖** 敞は、底本等に依る。細井本には弊に作つてゐる。

安里米具理 理は、元暦校本等に依る。底本等には里に作つてゐる。

事之乎波良婆 婆は、元暦校本等に依る。底本等、婆を波に作つてゐる。活字無訓本には、事を古又に作つてゐる。

四三三三 **麻須良男能** 細井本には、この前行に、反歌の一行がある。今、底本等に無きに依る。

伊田弖伊氣婆 婆は、元暦校本等に依る。底本等には波に作つてゐる。

四三三五 左註 **兵部使少輔** 使は元暦校本に依る。底本等にはこの字が無い。兵部使少輔の字面は四四三五の左註にも見える。

四三三六 **奈美那佐伎曾祢** 奈は、元暦校本等に依る。底本等には那に作つてゐる。

四三三六 **保理江己藝豆流** 理は、底本等に依る。細井本には里に作つてゐる。

可治登流間那久 登は、元暦校本等に依る。底本等には等に作つてゐる。

右九日 九日は、多本に依る。底本には五首に作り、朱で消して右に九日を書いてゐる。

四三三七 **美豆等利乃** 利は、元暦校本等に依る。底本等には里に作つてゐる。

多知能已蘇岐尒 蘇は、多本に依る。底本には何かを削つて書いてゐる。岐は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

四三三七 左註 **有度部牛麿** 部は、底本等に依る。細井本には郡に作つてゐる。

四三三八 左註 **生部道麿** 底本に、麿は麻呂の二字に作つてゐる。今、多本の例に依る。

四三三九 **由伎米久利** 久は、元暦校本等に依る。底本等には具に作つてゐる。

四四〇 **知ㇾ波ㇾ江** 元暦校本等、等知波ㇾ江に作つてゐる。トチも必しも否定し難いが、今、底本のまゝとする。訓假字として江を用ゐることは、他にも有るが不審である。四三四五の歌に、ヨの音に江を宛て、四四〇三の歌に、元暦校本等に与に作つてゐる字を類聚古集、細井本には江に作つてゐるのを見れば、もと与であつたものか。今、底本等のまゝとする。

四四一 **由伎加ㇾ奴加毛** 奴は、底本等に依る。神田本等には努に作つてゐる。元暦校本、及び類聚古集には下の加無く（類聚古集には上の加を賀に作る）由伎加ㇾ努毛としてゐるのは、奴加の兩字を誤つて一字としたものであらう。音聲の上からは奴を正しとするのである。

四四二 **麻氣波之良** 波は、底本等に依る。元暦校本に婆に作つてゐるのは、可なるが如くであるが、他本の支持が無いから、今、底本に依る。

四四五 **和加美可奈志母** 加は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

四四六 **伊比之氣等婆是** 氣等婆是は、元暦校本に依る。底本等、婆を波に作つてゐる。細井本は、伊比之古度婆曾である。類聚古集も亦、伊比之古度波曾で、兩傳の存する處である。

和須礼加祢津流 津は、底本のまゝであるが、前後多く字音假字の中にこの字のみ訓假字であるのは不審である。元暦校本に豆に作り、類聚古集に都であるのは、その兩字のうちであつたものかも知れない。しかし今いづれとも決定しかねるから、しばらく底本のまゝとする。

早部使主三中之父 早及び父は、底本等に依る。細井本には、早及び文に作つてゐる。

四四八 左註 **早部使主三中** 早は、底本等に依る。細井本には早に作つてゐる。

四四九 **加倍理久麻泥尒** 泥は、底本等に依る。細井本には伱に作つてゐる。

四四五一 **多妣己呂母** 妣は、元暦校本等に依る。底本等には比に作つてゐる。

夜部伎可佐祢弖 部は、元暦校本に依る。底本等、部を倍に作り、細井本には豆に作つてゐる。八重の意味のへは、甲類の文字、部を用ゐるべきである。

四四五一 左註 **伊母尒志阿良祢婆** 志は、元暦校本等に依る。底本等にはこの字が無い。

望陀郡上丁 丁は、多本に依る。底本には下に作つてゐる。

四四五六 **和須良延奴可毛** 奴は、元暦校本等に依る。底本等、奴を努に作つてゐる。音聲の上からも、奴を以つて正しとすべきである。活字無訓本に延を廷に作つてゐるのは、誤である。

四四五六 左註 **物部乎刀良** 乎は、元暦校本等に依る。底本等、乎を手に作つてゐる。いづれとも言ひ難いが、刀良兩字が字音假字と認められるから、これを以つて徹底すべきであらう。

四三七七　**蘇弖母志保ミ尒**　母は、元暦校本等に依る。底本等には毛に作つてゐる。

四三七八　左註　**種此那**　此は、底本等に依る。細井本には泚に作つてゐる。代匠記に、淮の誤としてゐるが、淮に作つてゐる本は無い。

四三七九　左註　**若麻續部羊**　羊は、多本に依る。底本に、羊を年に作り、朱で消して右に別筆で羊を書いてゐる。

四三八〇　題詞　**陳私拙懷一首幷短歌**　以上は、多本に依る。底本には、私はもとの字を直してあり、また幷短歌の三字が無い。

四三八一　**可氣麻久毛**　毛は、底本等に依る。細井本には母に作つてゐる。

四三八二　**伎已之乎須**　乎は、底本等に依る。細井本には米に作つてゐる。本集には、キコシヲス、キコシメス、共に見えてゐる。

四三八三　**可治比伎能保理**　理は、底本等に依る。細井本には里に作つてゐる。

四三八四　**倍奴倍久於毛保由**　奴は、元暦校本に依る。底本等には努に作つてゐる。奴を可とすべき處である。

四三八五　**伊敞能伊牟何**　牟は、底本等に依る。細井本には毛に作つてゐる。

四三八六　**奈流弊伎已等乎**　弊は、元暦校本等に依る。底本等には敞に作つてゐる。

四三八七　**伊母波之奴波尼**　尼は、底本等に依る。細井本には旦に作つてゐる。

四三八八　左註　**大舍人部千文**　／文は、神田本等に依る。底本には父を直してゐる。

四三八九　左註　**倭文部可良麿**　細井本に文を父に作るは誤である。

四三九〇　左註　**奈美多流美礼婆**　底本及び元暦校本等、婆を波に作つてゐるが、今、神田本等に依る。

四三九一　**多妣由岐尒**　岐は、元暦校本等に依る。底本等には伎に作つてゐる。

四三九二　**川上臣老**　臣は、元暦校本等に依る。底本には巨に作つてゐる。類聚古集等は亘に作つてゐる。

四三九三　左註　**津守宿祢小黒栖**　祢は、底本等に依る。細井本には、この字を落してゐる。

四三九四　左註　**久尒具尒乃**　以上は、元暦校本等に依る。底本等には具尒ミ乃に作つてゐる。

四三九五　**佐岐毛利都度比**　岐は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

四三九六　**伊刀母須敞奈之**　敞は、底本等に依る。細井本には弊に作つてゐる。

四三九七　**佐伎母里尒佐須**　須は、底本等に湏に作るに依る。細井本には酒に作つてゐる。湏は、須の古體である。

四三九八　左註　**大伴部廣成**　部は、神田本等に依る。底本及び元暦校本等、部の字が無い。但し元暦校本は緒で部を書き入れてゐる。

四三九九　**他都枳之良須母**　須は、底本等に依る。細井本には受に作つてゐる。

四四〇〇　左註　**私部石島**　私は、底本等に依る。細井本には和に作つてゐる。

四四〇一　**於母加古比須ミ**　ミは、底本等に依る。細井本には奈に作つてゐる。

四四〇二　**於枳弖他加枳奴**　加は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

四四〇三　左註　**大田部足人**　部は、元暦校本等に依る。底本には郡を直してゐる。

四四〇四　**多妣等弊等**　弊は、元暦校本等に依る。底本等には敞に作つてゐる。

四四〇五　**以弊乃母加**　同前。

四四〇六　**弊古祖志良奈美**　同前。

四四〇七　左註　**丈部直大麿**　麿は、底本等に依る。細井本には歳に作つてゐる。萬葉集目錄には、丈部文麿に作つてゐる。

四四〇八　**以母加去ミ里波**　元暦校本に、去ミを志去に作り、類聚古集に、志ミに作つてゐる。心をココリといふことも確たる根據が無いのであり、いまだいづれが是なるかを知らない。今、しばらく底本のまゝとする。

四四〇九　**久尒具尒乃**　具尒は、神田本等に依る。底本にはミに作つてゐる。

四四一〇　**美許等尒作例波**　作は、元暦校本等に依る。底本等には佐に作つてゐる。

四四一一　**伊波比弊等於枳弖**　弊は、多本に依る。底本には敞に作つてゐる。

四四一二　**麻爲弖枳尒之乎**　尒は、底本等に依る。細井本には麻に作つてゐる。

四四一三　**由美乃美他**　他は、元暦校本等に依る。底本等には仁に作つてゐる。從來、由美乃美仁とするに依り、夢のみにと訓して居つた處である。然しながら、夢はイメであつてユメと書いてあるものを見ない。またばかりの意を現すノミのミは、乙類の假字を用ゐるべきに、此處は甲類の假字なる美を用ゐてゐる。

これによつても從來の訓は正確でない事が知られる。よつて、古本に從つて、弓の共の義となすべきである。

四三九四 左註 **大伴部子羊** 部は、細井本に依る。底本及び元暦校本等、部の字が無い。萬葉集目錄には、大伴小羊に作つてゐる。

少目 二字、底本等に依る。細井本にはこの二字が無い。

四三九五 **縣犬養** 犬は、底本等に依る。寛永版本に大に作つてゐるのは誤である。

和我可敞流刀尒 尒は、元暦校本等に依る。底本等には祢に作つてゐる。

四三九六 **可比尒安里世波** 波は、底本等に依る。細井本には婆に等つてゐち。

四三九七 **見和多世婆** 婆は、細井本等に依る。底本等には波に作つてゐる。

弖里氏多弖流波ゝ之伎多我都麻 波ゝは、元暦校本等に依る。底本等には婆波に作つてゐる。

四三九八 **波ゝ可伎奈婆** 底本等、涅の下に泥の字がある。今、元暦校本等に依る。次の二句との對を成す所から見れば、古義のいふ如く、母はかき撫でで、波が一字落ちたものであるかも知れない。

四四〇〇 **可弊里美之都ゝ** 弊は、元暦校本等に依る。底本等には敞に作つてゐる。

波呂婆呂尒 婆は、元暦校本等に依る。底本には波に作つてゐる。

宇奈波良尒 底本、この前の行間に別筆で反歌とあり、細井本にも反歌の一行があるが、今、元暦校本等に依る。

久尒弊之於毛保由 弊は、元暦校本等に依る。底本等には敞に作つてゐる。

四四〇一 **伊弊於毛布等** 弊は、多本に依る。底本には敞に作つてゐる。また底本に負を布に作つてゐる。負はフの假字に用ゐた例は物乃負能（巻三）等の例があるが、四四〇二の歌の例に依ることとした。

安之弊毛美要受 前々條に同じ。

可良己呂武 底本等、武を茂に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。四四〇三の歌にも、青雲、來ぬかもを阿乎久牟、伎怒加牟と書いて居り、この國の方言に、モをムと發音する傾向があつたのであらう。

意伎弖曾伎怒也 怒は、元暦校本等に依る。底本等には奴に作つてゐる。

四四〇一 左註 **小縣郡** 小は、底本等に依る。細井本には少に作つてゐる。

四四〇二 **知波夜布留** 元暦校本に、布を美に作つてゐるのは、もと夫であつたものから誤つたのであらうか。濁音の字を用ゐるべき處であるが、他に證とすべきものが無いから、今底本のまゝとする。

奴佐麻都里 奴は、底本等に依る。細井本には怒に作つてゐる。

伊波布伊能知波 布は、元暦校本に依る。類聚古集に劣に作つてゐるのは、布から出た誤であらう。底本等には負に作つてゐる。

四四〇三 左註 **主帳** 帳は、底本等に依る。細井本には張に作つてゐる。

意保枳美能 枳は、底本等に依る。細井本には伎に作つてゐる。

四四〇五 **阿乎久牟乃** 牟は、元暦校本等に依る。底本等には毛に作つてゐる。

等能妣久夜麻乎 等能は、元暦校本に依る。底本等に多奈に作つてゐる。底本、左に等能（多本六條本同）又イ同とある。

古与弖伎怒加牟 与は、底本等に依る。類聚古集等には江に作つてゐる。本巻中江を訓假字として用ゐたものも見えるが、これらは或はいづれも与の誤であらうかと思はれる。なほ活字附訓本以後、怒を恕に作るのは誤である。

四四〇五 左註 **小長谷部笠麿** 小は、底本等に依る。細井本には少に作つてゐる。

進歌數十二首 底本等、數の字が無い。今、元暦校本等に依つて補ふ。

四四〇七 **和須良延奴加母** 加は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

四四〇七 左註 **他田部子磐前** 他は、底本等に依る。細井本には池に作つてゐる。萬葉集目錄には、他田部磐前に作つてゐる。

上野國 上は、底本等に依る。細井本等に下に作るのは誤である。

四四〇八 **上毛野君** 君は、底本等に依る。細井本には國に作つてゐる。

和我多知久礼婆 和は、底本等に依る。細井本には我に作つてゐる。

多久頭努能 努は、元暦校本等に依る。底本等には怒に作つてゐる。いづれも同類の字であるが、今、

古本に依る。

四四〇八

今日太尓母　尓は、類聚古集に依る。元暦校本に、太尓の兩字を奈に作つてゐるのも、太尓を誤つたものと認められる。底本は、仁に作つてゐる。

可奈之備麻世　以上は元暦校本等に依る。底本等、世の下に婆があり、細井本等には、備の下に伊がある。三種の傳來があり、細井本流の傳來も捨て難いが、世の下に婆を生じたのは、伊が無かつたからであるとも考へられる。

若草之　元暦校本に之の字が無い。この歌には之を常にシの音にのみ使つてゐるのであつて、ノには乃を使つてゐる。然るにこゝに之をノに用ゐたのは違例であるから、無い方がよいのかも知れない。今、底本のまゝとする。

乎可乃佐伎　乃は、元暦校本等に依る。底本等には之に作つてゐる。

与呂頭多妣　妣は、底本等に依る。細井本等には、比に作つてゐる。

和我久流麻涅尓　涅は、底本等に依る。細井本には、泥に作つてゐる。

伊能里麻乎之弖　細井本及び類聚古集には、乎を

四四〇九

宇に作つてゐる。申すをマウスとせるは、巻十八にも二例がある。元暦校本には異體の字に作つて證とならない。今、底本のまゝとする。且は、底本等に依る。細井本には尼に作つてゐる。

可古等登能倍弖　底本等に等登を登ゝに作つてゐる。今、元暦校本に依る。

伊弊婢等乃　細井本に、この前に反歌の一行がある。今、底本等に依る。婢は、底本等に依る。細井本には妣に作つてゐる。

於夜尓麻乎佐祢　乎は、底本等に依る。細井本には宇に作つてゐる。

四四一〇

伊也之久ここ二　底本に、也の下に之がある。但し消してある。今、多本に依る。元暦校本に二を尓に作るのは、原形であるかも知れないが、今、底本に依る。

四四一一

麻久良多之　之は、底本等に依る。細井本には知に作つてゐる。

四四一二

大伴部眞足女　部は、元暦校本に依る。底本にはこの字が無い。但し萬葉集目錄も、大伴眞足女に作つてゐる。女は、底本等に依る。細井本に母に作るのは誤である。

四四一四

麻古我弖波奈利　利は、底本等に依る。細井本には礼に作つてゐる。

四四一五　左註

大伴部小歲　小は、底本等に依る。細井本には少に作つてゐる。

荏原郡　荏は、元暦校本等に依る。底本等には荏に作つてゐる。

主帳　帳は、底本等に依る。細井本には張に作つてゐる。

四四一六

多比由苦世奈我　苦は、底本等に依る。細井本には久に作つてゐる。

右一首妻椋椅部刀自賣　底本に、この一行はその頁の最後の行に書き、記號を以つてこの位置に入れるやうにしてある。今、多本に依る。

四四一七

多麻能余許夜麻　能は、元暦校本等に依る。底本等には乃に作つてゐる。

四四一八

都知尓於知母加毛　加は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

四四一八　左註

荏原郡　荏は、細井本等に依る。底本等には荏に作つてゐる。

四四一九

古布志氣毛波母　普通に戀しく思はむの義としてゐるが、戀しけむはもの義であるかも知れない。但

四四二〇　左註

し助詞ハモは、常に體言に接續し、いまだ用言に接續する例を見ない。疑を存する所以である。

椋椅部弟女　椅は、多本に依る。底本には埼に作つてゐる。

四四二一

美等登志努波祢　努は、底本等に依る。細井本には怒に作つてゐる。

四四二二

於妣波等可奈ゝ　波は、多本に依る。底本には婆に作つてゐる。

四四二三　左註

服部呰女　訓は、春日政治博士の說に依り、底本の訓を保存する。

四四二三　左註

二月廿日　この巻は、月日の順序になつて居り、前に既に二月二十三日の歌があるから、此處も廿の下に字脫とする說がある。また古葉略類聚鈔には、廿を廿九に作つてゐる。今しばらく底本のまゝとする。

四四二五

佐伎毛利尓　毛は、底本等に依る。細井本には母に作つてゐる。

四四二六

於岐弖可奈之毛　岐は底本等に依る。細井本等には伎に作つてゐる。

四四二三

去呂毛尓麻世流　去は、底本等に依る。元暦校本に故に作り、類聚古集等に古に作つてゐるが、衣服

のコは、許の類の去を用ゐる方が正しいのであるから、今、底本等に依る。

四三一 左註 **昔年防人歌矣** 年は、多本に依る。底本には何かを直してゐる。

四三三 左註 **安倍沙美麿** 美は、元暦校本等に依る。底本等には旅に作つてゐる。

四三四 **比婆里安我流** 婆は、底本等に依る。元暦校本等には波に作つてゐる。

四三五 **兵部使少輔** 細井本には使の字が無いが、題詞にも兵部使人とあり、なほこの字があるを是とするであらう。

四三七 **伊都伎麻佐牟等** 佐は、元暦校本等に依る。底本等には左に作つてゐる。

四三八 題詞 **陣妙觀** 陣は、底本等に依る。細井本には陁に作つてゐる。底本右に續日本紀とあり、類聚名義抄に、陣、弘列反、人姓國名人名とあつて、薩とは別字である。薛は、この陣に同じであらう。

四三九 題詞 **譖曰邑婆** 邑は、底本等に依る。細井本には色に作つてゐる。

四三九 左註 **上總國大椽** 國は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。椽は、多本に依る。底本に、椽を様に作り朱で消して右に椽を書いてゐる。

四四〇 **伊麻之奈波** 波は、底本等に依る。細井本には婆に作つてゐる。

四四三 題詞 **集飲歌** 歌は、細井本等に依る。底本等にはこの字が無い。

四四三 **比佐可多能** 能は、元暦校本等に依る。底本等には乃に作つてゐる。

四四四 **安伎能由布敝波** 敝は、底本等に依る。元暦校本、細井本には弊に作つてゐる。

四四七 左註 **左大臣和歌** 和は、底本等に依る。細井本にはこの字がない。

四四九 題詞 **左大臣宴於** 宴は、多本に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

四五一 **安我毛布伎美波** 美は、底本等に依る。活字無訓本にはこの字が無い。

波奈尓奈蘇倍弖 蘇は、元暦校本等に依る。底本等にば曾に作つてゐる。

四五三 左註 **大伴宿祢家持** 家持は、元暦校本等に依る。底本には本文中に無く右に書いてゐる。

四五五 題詞 **陣妙觀命婦等** 陣は、底本等に依る。細井本には陁に作つてゐる。

四五五 **安可祢左須** 左は、元暦校本等に依る。底本等には佐に作つてゐる。

四五六 題詞 **陣妙觀命婦** 前々條に同じ。

四五六 左註 **左大臣是葛城王後賜橘姓也** 以上、底本等に依る。活字無訓本にはこれを落してゐる。

四五七 題詞 **大后** 以上は、元暦校本等に依る。底本等、太皇太后に作つてゐる。按ずるに、光明皇后は、この時、皇太后にましました。されば太皇太后とあるは誤と爲すべきである。

四五七 **之多婆倍弖** 婆は、元暦校本等に依る。底本等には波に作つてゐる。

四五八 小註 **古新未詳** 四字、底本等に依る。元暦校本に、この四字無く、但し赭及び墨で書いてゐる。活字無訓本にもこの四字が無いが、これは落したものである。

四五九 **未奈伎久麻泥尓** 泥は、底本及び類聚古集等に依る。元暦校本等には涅に作つてゐる。

四六一 **美乎左香能保流** 香は、元暦校本等に依る。底本等には可に作つてゐる。

梶音乃 以上は、元暦校本等に依る。底本等、梶の下に乃の字がある。かやうな熟語風の場合には、助詞ノに當る文字を省略する例も多い。

四六四 左註 **右五首** 五は、元暦校本に依る。底本等には二に作つてゐる。按ずるに、四四五七の歌の前にある三月七日於河内國伎人鄕馬國人之家宴歌三首の題詞は、三首とあるに依り、四四五七、四四五八、四四五九の三首に係るものであり、その次の四四六〇、四四六一、四四六二の三首に就いては、四四六二の左註に、右三首江邊作之とあるが、月日及び作者を缺く。この四四六四の左註を、右二首とあるに依れば、その二十日大伴宿祢家持依興作之の句は、四四六三、四四六四の二首のみに係ることになるが、右五首とあるに依れば、四四六〇以下の五首に係ることになつて、その作歌の日、及び作者を指示することになる。古葉略類聚鈔に、四四六〇、四四六一の二首の前行に、天平勝寶八歳三月廿日大伴ㇾ家持依興作之江邊之□三首中二首とあるは、五首としての解釋に立つものである。

四六五 **多婆左美蘇倍弖** 婆は、底本等に依る。細井本には波に作つてゐる。

麻都呂倍奴 倍は、諸本に別傳無く、後、略解に波の誤とする説がある。動詞マツロフは、四段活としての文献もあるが、麻都呂倍乃卑氣乃麻尓麻尓（巻

十八、四〇九四）の例は、下二段活と見られるので、もと四段活であつたものが、後下二段に用ゐられたとも考へられる。倍は、可奈之久於毛倍遊（巻十七、四〇一六）の例に依れば、ハの假字に使つたかとも思はれる。今しばらく、ハとする説に從ふ。

可之波良能 底本等、波を婆に作つてゐる。今、元暦校本に作る。

美也婆之良 底本、婆を波に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

加久左波奴 左は、底本等に依る。細井本には佐に作つてゐる。

大伴古慈斐 斐は、底本等に作る。細井本には悲に作つてゐる。

欲脩道 底本等、脩を修に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

奈保之祢我比都 我は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

小雷 小は、底本等に依る。細井本には少に作つてゐる。

感憐 感は、多本に依る。底本には盛に作り、朱で消し、右に感を書いてゐる。

安之比奇乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には之に作つてゐる。

夜麻多知婆奈乎 婆は、元暦校本に依る。底本等は波に作つてゐる。

出雲掾 雲は、底本等に依る。活字無訓本に雪に作るのは誤である。

美許登加之古美 登は、底本等に依る。細井本には等に作つてゐる。

安宿奈杼麻 安は、底本等に依る。細井本には古に作つてゐる。

朝集使 使は、底本等に依る。細井本には無い。

各作歌 底本等、作の下に此の字がある。今、元暦校本に依つて削る。

式部少丞 丞は、底本等に依る。細井本には掾に作つてゐる。

奈能其等也 奈能は、底本等に依る。細井本には、この二字を落してゐる。

由布義理尒 底本に、理を利に作つてゐる。今、元暦校本に依る。

淨御原宮 宮は、底本等に依る。細井本には無い。

刀其已呂毛安礼波 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

美等母安可米也 可は、元暦校本等に依る。底本等、加に作つてゐる。

和須良由麻之自 底本等、自を目に作つてゐる。今、橘本博士の説に依り、元暦校本に自に作るに從ふ。

加久之許曾 加は、元暦校本等に依る。底本等には可に作つてゐる。

右 右は、元暦校本等に依る。底本等には右一首に作つてゐる。

弖良須日月乃 乃は、底本等に依る。細井本には能に作つてゐる。

奈尒乎加於毛波牟 乎は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

鷺乃 乃は、底本等に依る。細井本には之に作つてゐる。

任意 意は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

不堪奏之 底本等、之の下に也の字がある。今、元暦校本等に依つて削る。

可毛羽能伊呂乃 以上は、元暦校本等による。底本等には婆に作つてゐる。

美等母安可米也 可は、元暦校本等に依る。底本等、加に作つてゐる。

和須良由麻之自 底本等、自を目に作つてゐる。今、橘本博士の説に依り、元暦校本に自に作るに從ふ。

加久之許曾 加は、元暦校本等に依る。底本等には可に作つてゐる。

右 右は、元暦校本等に依る。底本等には右一首に作つてゐる。

弖良須日月乃 乃は、底本等に依る。細井本には能に作つてゐる。

奈尒乎加於毛波牟 乎は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

鷺乃 乃は、底本等に依る。細井本には之に作つてゐる。

任意 意は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

不堪奏之 底本等、之の下に也の字がある。今、元暦校本等に依つて削る。

可毛羽能伊呂乃 以上は、元暦校本等による。底本等には婆に作つてゐる。

安之比奇乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には之に作つてゐる。

夜麻多知婆奈乎 婆は、元暦校本に依る。底本等は波に作つてゐる。

出雲掾 雲は、底本等に依る。活字無訓本に雪に作るのは誤である。

美許登加之古美 登は、底本等に依る。細井本には等に作つてゐる。

安宿奈杼麻 安は、底本等に依る。細井本には古に作つてゐる。

朝集使 使は、底本等に依る。細井本には無い。

各作歌 底本等、作の下に此の字がある。今、元暦校本に依つて削る。

式部少丞 丞は、底本等に依る。細井本には掾に作つてゐる。

奈能其等也 奈能は、底本等に依る。細井本には、この二字を落してゐる。

由布義理尒 底本に、理を利に作つてゐる。今、元暦校本に依る。

淨御原宮 宮は、底本等に依る。細井本には無い。

刀其已呂毛安礼波 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

美等母安可米也 可は、元暦校本等に依る。底本等、加に作つてゐる。

和須良由麻之自 底本等、自を目に作つてゐる。今、橘本博士の説に依り、元暦校本に自に作るに從ふ。

加久之許曾 加は、元暦校本等に依る。底本等には可に作つてゐる。

右 右は、元暦校本等に依る。底本等には右一首に作つてゐる。

弖良須日月乃 乃は、底本等に依る。細井本には能に作つてゐる。

奈尒乎加於毛波牟 乎は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

鷺乃 乃は、底本等に依る。細井本には之に作つてゐる。

任意 意は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

不堪奏之 底本等、之の下に也の字がある。今、元暦校本等に依つて削る。

可毛羽能伊呂乃 以上は、元暦校本等による。底本等には婆に作つてゐる。

安之比奇乃 乃は、元暦校本等に依る。底本等には之に作つてゐる。

夜麻多知婆奈乎 婆は、元暦校本に依る。底本等は波に作つてゐる。

出雲掾 雲は、底本等に依る。活字無訓本に雪に作るのは誤である。

美許登加之古美 登は、底本等に依る。細井本には等に作つてゐる。

安宿奈杼麻 安は、底本等に依る。細井本には古に作つてゐる。

朝集使 使は、底本等に依る。細井本には無い。

各作歌 底本等、作の下に此の字がある。今、元暦校本に依つて削る。

式部少丞 丞は、底本等に依る。細井本には掾に作つてゐる。

奈能其等也 奈能は、底本等に依る。細井本には、この二字を落してゐる。

由布義理尒 底本に、理を利に作つてゐる。今、元暦校本に依る。

淨御原宮 宮は、底本等に依る。細井本には無い。

刀其已呂毛安礼波 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

等には婆に作つてゐる。

美等母安可米也 可は、元暦校本等に依る。底本等、加に作つてゐる。

和須良由麻之自 底本等、自を目に作つてゐる。今、橘本博士の説に依り、元暦校本に自に作るに從ふ。

加久之許曾 加は、元暦校本等に依る。底本等には可に作つてゐる。

右 右は、元暦校本等に依る。底本等には右一首に作つてゐる。

弖良須日月乃 乃は、底本等に依る。細井本には能に作つてゐる。

奈尒乎加於毛波牟 乎は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

鷺乃 乃は、底本等に依る。細井本には之に作つてゐる。

任意 意は、底本等に依る。細井本にはこの字が無い。

不堪奏之 底本等、之の下に也の字がある。今、元暦校本等に依つて削る。

可毛羽能伊呂乃 以上は、元暦校本等による。底本等には婆に作つてゐる。

本等には、毛の下に能の字がある。又溫故堂本等には毛の下に能の字があつて、羽の下の能の字が無い。すべて三種の傳來がある。

肆宴歌 この下に歌數を何首とあるべき例であるが、此處は、底本を始め諸本に皆この通りである。但し一首の二字を書き入れてあるものはある。今、底本のまゝとする。

奈枳和多良奈牟 枳は、元暦校本等に依る。底本等には伎に作つてゐる。

十五首 五は、元暦校本に依る。底本等、五の字が無い。これは下の依興各思高圓離宮處作歌五首を加へれば十五首である。

夜度乃烏梅能 烏は、底本等に依る。細井本には鳥に作つてゐる。底本に、能を乃に作つてゐる。今、元暦校本等に依る。

伎美我伎麻左奴 左奴は、底本等に依る。細井本には世波に作つてゐる。

美礼杼母安加奴 加は、底本等に依る。細井本には可に作つてゐる。

伎末勢和我世古 古は、細井本等に依る。底本等には呂に作つてゐる。

四五〇四 左註 **主人** 活字無訓本に、この下にまた主人とあるは誤である。

四五〇六 **努乃宇倍能美也波** 波は、類聚古集に依る。底本等には婆に作つてゐる。次の歌の第二句にも、古本には同じく美也波とある。

多ゝ志ゝ伎美能 下のゝは、底本等に依る。細井本に伎に作つてゐるのは誤である。

四五〇七 **乎能宇倍乃美也波** 波は、元暦校本等に依る。底本等には婆に作つてゐる。

四五〇七 左註 **大原今城** 以上は、元暦校本等に依る。底本等に、大原の二字が無い。

四五〇九 **於保吉美乃** 乃は、元暦校本等に依る。底本等には能に作つてゐる。

四五一三 **可氣左倍見要氏** 氏は、底本等に依る。細井本には底に作つてゐる。

四五一四 題詞 **小野田守** 小は、底本等に依る。細井本には少に作つてゐる。

四五一四 左註 **未誦之** 三字、底本等に依る。細井本にはこの三字が無い。

四五一五 題詞 **治部少輔** 治は、元暦校本等に依る。底本等には式に作つてゐる。底本、それを朱で消して右に治を書いてゐる。

四五一六 **年乃始乃** 上の乃は、底本等に依る。細井本には之に作つてゐる。

尾題 **卷第二十** 活字無訓本には、この下に小字に終の字を入れてゐる。なほこの次に、底本等、奥書があるが、後人の筆に成ること明であるから、今これを採らない。

定本萬葉集第五册の後にしるす

校本萬葉集の成立後、その成果を基礎として、萬葉集の本文及び釋文の研究に從事し、一往その結果を定本萬葉集として公刊することとし、昭和十五年二月、その第一册を刊行し、その後、昭和十七年四月、第二册を、同十二月第三册を、十九年一月、第四册を逐次刊行したが、第五册は、戰爭の爲に遲延して、今こゝにこれを刊行するを得るに至つた。かくの如くにして萬葉集二十卷の刊行は、これを完了するを得たが、何分にも刊行が長年月に亙つた爲に、所見にも變化を生じて、前後不統一の點を生じた所が少く無い。また第五册の如きは、諸種の事情から、異體字の使用を一層制限して、多くは普通字を以つてこれに代へた。何處までも傳來の字面を尊重する建前で、本文及び釋文の選定に際しては、別記に於いてこれを說明したが、それも簡單に過ぎて更に詳說を要するものあるべく、殊に全般に關する學的根據に就いては、全然これに觸れて居らず、不十分であることを免れないと思ふ。

萬葉集の本文及び釋文の研究に就いては、本書の成立は、一の段階を成すものであるとは信ずるが、勿論これで萬事が決定したとは考へない。編者自身としても一の中間報告であり、現に前數册の刊行後に到達し得た所も二三には止まらない。これらはやがてある時期に於いて本書の改訂、及びその他の形に於いて報告したいと思ふ所である。

昭和二十三年三月

佐佐木信綱
武田祐吉

國立國會圖書館
昭和二十三年三月十日 受入
割當事務庁
譲渡図書

定本萬葉集正誤

既刊の分に就いて誤字誤植を訂正する。
内容の訂正に關するものは他の機會に讓る。

一

頁	段	行	誤	正
八四	上	四	生家里	生尓家里

二

頁	段	行	誤	正
九	上	三	尓能保奈酒	尓能保奈須
一二	中	二	幷に	並に
二〇	中	一四	幷に	並に
二四	中	四	幷に	並に
二七	中	一二	幷に	並に
二九	中	二〇	幷に味酒の	並に味酒の
七一	中			一一六〇
七五	中	一六	一一〇	

三

頁	段	行	誤	正
七	上	二	大泊瀬稚武天皇	大泊瀬幼武天皇
七	下	一	大泊瀬稚武天皇	大泊瀬幼武天皇
一四	中	一三	容艶ひ	容艶ひ
三九	中	一	吾妹	吾妹
四二	上	一七	娯奈利	越奈利
四三	上	一八	宇乃花山爾	宇乃花山尓
四六	上	四	岡邊	岡邊有
五〇	中	一二	立ち上る	立ち上る
五一	上	一四	告許會	告許會

頁	段	行	誤	正
五九	上	一三	山河開	山可開
五九	中	二	朝明の	朝明の
六六	中	一五	石走り	石走り
八〇	上	一〇	小雨零數	小雨零敷
一〇〇	中	九	寄りしものを	寄りにしものを
一〇一	中	三	鳴心哉	鳴意哉
一一七	上	三	吾爾	吾尓
一二一	中	二〇	つつ見坐して	見つつ坐して
一三〇	上	一八	越良牟	越良牟
別記一	下	一七	大泊瀬稚武天皇	大泊瀬幼武天皇
三八	下	一一	或本歌Ⅲ	或本歌曰
四〇	上	一八	直してゐや。	直してゐる。
五四	下	一四	神思將御思	神思將御知
五五	下	一	三一二囘	三一二四

四

頁	段	行	誤	正
一六	中	一一	戀ひなむ	戀ひむな
八二	上	一八	可禰都母	可祢都母
一〇六	中	一〇	放髪艸	放髪丱
		一一	放髪艸	放髪丱
別記二九	下	一	於保夫祢能	於保布祢能
三二	上	二〇	佐に作つてゐる。	左に作つてゐる。

昭和二十三年六月十日 印刷
昭和二十三年六月十五日 第一刷發行

定本萬葉集 五
定價參百貳拾圓

編者 佐佐木信綱 武田祐吉
東京都千代田區神田一ツ橋 岩波書店内
編集者 布川角左衛門
東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
發行者 岩波雄二郎
東京都西多摩郡瑞穂村根ヶ布三八五番地
印刷者 山田一雄

發行所 東京都千代田區神田一ツ橋二ノ三 岩波書店
會員番號A一〇九〇〇番

本製・刷印堂化大社會式株

定本萬葉集正誤

既刊の分に就いて誤字誤植を訂正する。
内容の訂正に關するものは他の機會に讓る。

一

頁	段	行	誤	正
八四	上	四	生家里	生尓家里

二

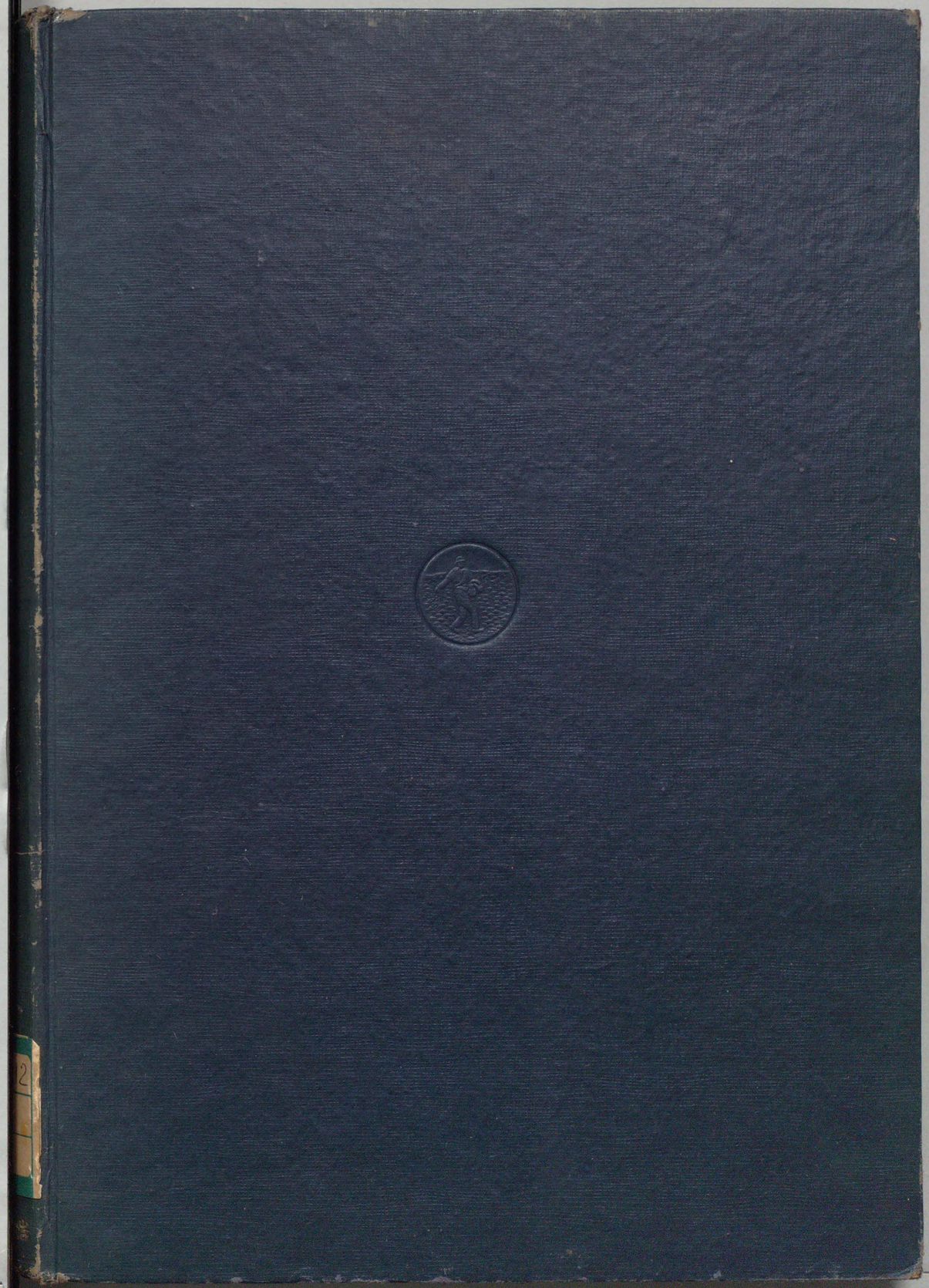
九	上	三	尓能保奈酒	尓能保奈須
一二	中	二	幷に	並に
二〇	中	一四	幷に	並に
二四	中	四	幷に	並に
二七	中	一二	幷に	並に
二九	中	二〇	幷に味酒の	並に味酒の
七一	中			一一六〇
七五	中	一六	一一〇	

三

七	上	二	大泊瀬稚武天皇	大泊瀬幼武天皇
七	下	一	大泊瀬稚武天皇	大泊瀬幼武天皇
一四	中	一三	容艶ひ	容艶ひ
三九	中	一	吾妹	吾妹
四二	上	一七	娯奈利	越奈利
四三	上	一八	宇乃花山爾	宇乃花山尓
四六	上	四	岡邊	岡邊有
五〇	中	一二	立ち上る	立ち上る
五一	上	一四	告許會	告許曾

五九	上	一三	山河開	山可開
五九	中	二	朝明の	朝明の
六六	中	一五	石走り	石走り
八〇	上	一〇	小雨零數	小雨零敷
一〇〇	中	九	寄りしものを	寄りにしものを
一〇一	中	三	鳴心哉	鳴意哉
一一七	上	三	吾爾	吾尓
一二一	中	二〇	つつ見坐して	見つつ坐して
一三〇	上	一八	越良牟	越良牟
別記一	下	一七	大泊瀬稚武天皇	大泊瀬幼武天皇
三八	下	一一	或本歌曰	或本歌曰
四〇	上	一八	直してゐや。	直してゐる。
五四	下	一四	神思將御思	神思將御知
五五	下	一	三一二四	三一二四

四

一六	中	一一	戀ひなむ	戀ひむな
八二	上	一八	可禰都母	可祢都母
一〇六	中	一〇	放髪艸	放髪卅
		一一	放髪艸	放髪卅
別記二九	下	一	於保夫祢能	於保布祢能
三二	上	二〇	佐に作つてゐる。	左に作つてゐる。

割當事務庁
讓渡図書